

**厚生省薬務局長日記——
「高田浩運日記」一九五九年七月～一九六〇年六月**

翻刻・城下賢一、木多悠介、小林愛恵、海野大地、鹿島晶子

The Diary of Hiroyuki Takata, July 1959 - June 1960

Kenichi JOHSHITA, Yusuke KIDA, Manae KOBAYASHI,
Daichi UNNO, Akiko KASHIMA

城下賢一

本号では 国立国会図書館憲政資料室所蔵の一高田浩運関係文書」のうち日記（以下「高田日記」と略記）の一部、すなわち厚生省業務局長時代（一九五九〔昭和三十四〕年七月～一九六〇〔昭和三十五〕年六月）の記事を、御遺族の了解の下、漏れなく翻刻している。

日本政治史研究において、史料としての日記の重要性は言を俟たないところで、近年では、戦後についても、政治家をはじめとして日記の公開が増えており、翻刻も行われるようになってきている。このような観点から、ここに、まず一部ではあるものの、「高田日記」を翻刻して紹介したい。この「高田日記」によって、(後に事務次官を経て参議院議員も務めた)高田という幹部官僚の行動や観察について詳細に知ることができるのはもちろん、自民党政権発足時期の政治状況を理解するため政治家とは異なる官僚の視点が提供される。戦後日本政治史研究にとって格好の素材ということができ、この時期についてさらに多角的に検討することを可能にしてくれるだろう。

ここでは「高田日記」の解題として、著者・高田浩造（一九一四〔大正三〕年～一九七七〔昭和五十二〕年）の経歴やその人柄、高田の周辺の人々、「高田日記」を含む高田に関係する史料の概要、今回の「高田日記」翻刻分の内容について概説したい。

なお、以下の論述にあたっては、高田の没後に出版された『追想高田浩運』（高田浩運先生追悼録刊行会一九八七、以下『追想』と略記）と、

高田の長男・禎浩氏の談話に依拠しているところが多く、それらについては注記を最小限に留めている。

高田浩運の略歴

高田は一九一四（大正三）年二月四日、熊本県玉名郡築山村大字築地字南大門（当時、現・玉名市）に生まれた。幼少より優秀かつ努力家で、築山尋常高等小学校（現・玉名市立築山小学校）から玉名中学校（現・熊本県立玉名高等学校）に進学し、同中学校では四学年修了して第五高等学校（現・熊本大学）文科甲類に進学し、一九三三（昭和八）年三月に卒業した。さらに、東京帝国大学法学部法律学科（英法）に進学して一九三六（昭和十一）年三月に卒業した。この間、一九三五（昭和十）年十月に高等文官行政科に合格し、卒業後の一九三六（昭和十一）年四月、直ちに内務省に入省した。

内務省では神社局、土木局兼文書課に勤務した後、当時全国で最も若い警視として香川県警察部警務課長に転出し、さらに北海道警察部警防課長、同学務部社会教育課長兼社寺兵事課長、同経済部商工課長を務めた後、一九四一（昭和十六）年二月、厚生省に異動し、衛生局資材課に配属された。

厚生省は一九三八（昭和十三）年、内務省衛生局・社会局および逓信省簡易保険局を統合して設置された新設の官庁で、後述の通り内務省入省の翌年に当時流行した疫病で母親を亡くしている高田は厚生行政の重要性を認識し、職務に精励したという。衛生局での大きな仕事は、従来行われてきた薬律（薬品営業並薬品取扱規則）に基づく薬事制度を見直し、戦時体制に即応した新たな薬事制度構築のための法令を制定することとあり、高田は事務官としてこれに従事し、その成果は一九四三（昭和十八）年三月、薬事法の公布に結実した。一九四四（昭和十九）年四月、大臣官房総務課兼衛生局勤務に転じた。

戦後、一九四七（昭和二十二）年九月に医務局医務課長、一九四八（昭

和二十三) 年七月に大臣官房人事課長、一九五〇(昭和二十五) 年十一月に同総務課長、一九五一(昭和二十六) 年八月に社会局保護課長へと、それぞれ着任した。その後、一九五二(昭和二十七) 年一月には医務局次長に昇進し、三年七ヶ月の在任に及んだ。当時は占領終了後の医療制度の再編の時期にあたり、高田は医系技官の局長を補佐し、事務官トップとして、医薬分業の推進、新医療費体系の作成などに取り組んだ。

一九五五(昭和三十) 年八月にはさらに児童局長に昇進し、ここでもほぼ四年間にわたって在任し、保育所措置費の抜本改正や国立秩父学園の創立、母子衛生対策の推進などの業績を挙げた。そして、一九五九(昭和三四) 年七月、薬務局長に着任し、懸案だった新薬事法の制定に道筋をつけた。その後、一九六〇(昭和三五) 年六月に大臣官房長、一九六一(昭和三十六) 年十一月に保険局長、一九六二(昭和三七) 年七月に社会保険庁長官(初代)、一九六三(昭和三八) 年十二月に事務次官へと昇進を重ね、一九六五(昭和四十) 年二月、事務次官を辞職して約二十九年間の官僚生活を終えている。

官僚生活後には、従前から心積もりしていた政界への転身を目指した。同年七月に実施された第七回参議院議員通常選挙で、定員が二に増加した熊本県選挙区から立候補したが、この際には僅かな票差で次点に留まった。直後に交通事故に遭うなど悲運が続いたが、その後、捲土重来を期して熱心に選挙活動に取り組み、一九六八(昭和四十三) 年七月、再び第七回参議院議員通常選挙に熊本県選挙区から立ち、見事に一位当選を果たした。さらに一九七四(昭和四十九) 七月、第九回参議院議員通常選挙でも同選挙区から一位で連続当選した。

ところが、政界でのさらなる活躍を期していた高田であったが、不幸にも病がこれを阻んだ。一九七六(昭和五十一) 年六月、一月に父を看取った半年後に国立病院医療センターに入院し、一時は小康を得て退院するものの、十二月に再び入院し、一九七七(昭和五十二) 年七月、六十三歳で逝去した。

高田浩運の人柄

高田の優秀さはその略歴から察せられるところだが、その人柄については、長期間にわたって充実した日記を残したことに見られるように、誠実、几帳面であり、また厳格などと評されることが多い。児童局長時代に新聞に掲載された人物紹介には、略歴とともに、極めて端的にその人柄がまとめられている。

酒、タバコ、碁、将棋、マージャン、いずれもやらぬ。好きなのはテニス、冬場はスキーに行く。石部金吉のように仕事一すじに固まって、あまり上等でない厚生省の木造の児童局長室に収まっている。人呼んで「熊本のサムライ」、熱血漢である。

熊本県の産、玉名中、五高、東大法学部を出ると内務省に入ったのが昭和十一年。十六年に厚生省に移り、衛生局で薬の関係の仕事をした。二十年保険局庶務課長となり、英国のバリッジの社会保障制度について文献を取り寄せて研究、社会保障制度調査会をつくった。今日議論やかましい社会保障のハシリの仕事をしたわけである。

二十二年に医務局医務課長で医療法を手掛け、二十三年には官房の人事課長として高級公務員の試験や労組との折衝に苦労した。二十五年には官房総務課長として医薬分業問題に努力した。彼の行くところ難問題に出会わないことはなく、生一本の性格から真正面から四ツに組んで奮闘して来たのであった。

総務課長時代に「書簡発表事件」というのがあった。橋本竜伍氏が大蔵省で機構改革をしようとしている時、GHQからのその必要なしとの書簡を高田課長は記者団に発表してしまった。お家大事の気持から大臣に相談せずに発表したのだが、橋本氏は面白くない。たちまち社会局保護課長に左遷された。

しかし内外の彼に対する信望は厚く、二十七年には医務局次長、

三十年には児童局長と着々席を進めている。

高校時代には文学者になろうかとも考えていたそうで、いまだに彼の作詞の寮歌が熊本の学生に歌われているという。思慮深く仕事熱心、ハツタリや気取のない役人である。四十三歳。

記事中にある書簡発表事件とは、占領下の一九五一年八月、政府が検討していた行政改革の一環として厚生省の廃止の噂もあがっていたなかで、橋本龍伍厚生大臣が行政管理庁長官を兼ねて行政改革の担当でもあったところ、連合国最高司令官総司令部（GHQ）のC・S・モロハン公衆衛生福祉局長より橋本厚相宛に厚生省の存置を求める書簡が来着し、高田総務課長がそのまま記者クラブで発表に及んだというものであった。その行為に激怒した橋本は高田を叱責し懲罰的異動を命じたが、高田は記者に対して「書面は秘密文書でもなく親展書でもなかった。たまたま職組が厚生省改悪反対の闘争をしているときでもあり、省内が動揺していたので参考として出したまでで落度はないと思っている」と堂々と自己の所信を述べた。その後、厚生省内では局長会議や職員組合が橋本への抗議の姿勢を見せるなど対立が深まり、このためもあってか橋本は高田を総務課長に戻そうとし、熊本県選出の松野頼三代議員にも仲介を依頼したところ、高田はこれを頑として拒否したという。高田の熟慮と信念とを示すエピソードとして知られるものである。

厳しさを持つ高田であるが、しかしその厳しさには意味があり、人を惹き付けるところがあった。例えば、「高田日記」翻刻文中に記事のある山下眞臣は、薬務課の事務官として、薬事法の全面改正に参画し、高田に鍛え上げられたことを次のように述べている。

のんびり地方勤務をやって些かボケ気味であったと思われる私をある日局長室に呼ばれ、「参考になるかも知れん」と一言だけいわれて風呂敷包みを一つ渡された。中味は昭和十八年の薬事法制定当時、当時の高田事務官が作られた法案の検討経過、関係資料、質

疑応答、解説、メモ等を整然と整理されたものであった。戦時中の紙質の悪い、がり版ずりのものであったが、その一つ一つに心血を注いだ周到な思考が読みとれ、薬事法規に対する眼が開かれる思いがすると共に、仕事というものに対する真剣な気迫に身をつつまれる思いがしたものである。

山下は、高田と同郷で中高大と後輩であつて、高田の人事課長時代に誘いを受けて厚生省に入り、後に事務次官になる人物であるが、高田の死まで親しく指導を受けたという。高田について、山下は、「公務に関しては些かもいい加減なところがなく、真剣そのものであったが、その中でも常に部下や後輩に対する教育という事を考えておられ、又、一人々々の健康や生活の事まで心から心配しておられた。しかし、概して寡黙で、その事を口に出してはいわれず、後になって、ああそこまで考えて頂いていたのかと思ひ当ることが多い」と、その誠実な人柄とともに、部下や後輩に対する教育的配慮や思いやりのたいへん手厚かったことを、感謝の念とともに述べている。

高田の周辺の人々

ここでは、「高田日記」の理解に資するため、翻刻文中の記事にある人々を中心に周辺の人々について概観したい。

高田の両親は、父・幾平（一八八五〔明治十八〕年二月一日生、一九七六〔昭和五十一〕年一月二〇日没）、母・モミ（前田氏、一八九〇〔明治二十三〕年十月八日生、一九三七〔昭和十二〕年三月十一日没）で、高田はその一人息子として誕生した。生母・モミが比較的早くに亡くなったため、幾平は、高田にとって継母となるアイ（城戸氏、一八九八〔明治三十二〕年一月五日生、一九九二〔平成四〕年三月十一日没）と再婚しており、「高田日記」翻刻文中に記事のある母は、アイのことを指している。

高田家は代々築山村⁶に在住してきた一族で、高田の祖父・禎次郎も郷土史にその名が記録されている⁷。高田が作成し、禎浩氏が増補した家系図によって、約二百五十年前の代にまで遡ることができるという。同郷で高田の遠縁とされる人物の中には、内務省等に勤務し、その後、富山県で内務部四等技師、同第二課長など歴任して土木事業を担当した高田雪太郎（一八五九〔安政六〕年～一九〇三〔明治三十六〕年）がいる⁸。

生地側にある円光寺が高田家の菩提寺であるが、その住職を務めた小岱篤之は高田の一つ上で、生涯にわたって親交を結んだ。

五高時代の友人の一人が中村幹尚で、同じ甲三クラスに属しており、参議院議員時代の高田の東京事務所長兼会計責任者を務めたという。同じクラスで親しかった者には、他に、富士銀行常務取締役を務めた一宮昇三郎、日本経済新聞記者を務めた佐々木正晴がおり、他の五高関係者では、五高習学寮で同室であり、後にミキモト専務取締役を務めた岩中芳国と特に親しかったという。

東大入学後には、同郷の人々の支援や引き立てを受け、交友関係を広げた。玉名を地盤とし、民政党の有力代議士として知られた大麻唯男の知遇を得て、邸宅に出入りするようになった。また、やはり玉名の出身の内務官僚を務め、高田の入学直前に政界に転じた福田虎亀の世話も受け、一時、その弟の福田房雄宅で食事の世話を受けていた。福田の弟が黒川家に養子に入った黒川武雄（虎屋当主、参議院議員）である。

内務省入省後、大麻唯男の紹介によって本山文平の長女で東京府立第三高等女学校卒の薫との縁談がまとまり、一九三九（昭和十四）年十月に結婚した。二人の間には一女三男（恭子、禎浩、浩二、祥三）が誕生した（ただし、浩二は生後すぐに死去）。

妻の実家である本山家について見ると、義父の文平は新潟県出身で、一高・東大を経て一九二二（大正元）年に高等文官試験行政科に合格し、台湾総督府に長く勤務し、台湾総督府警察刑務局長などを務めた。その後、大分県知事に転じ、熊本県知事を最後に一九三七（昭和十二）年に

退官し、その後は台湾青果社長など民間企業の経営者を歴任した。義母の式子は謡の師匠で、自宅で弟子に稽古をつけていたのを隣地に居住する薫が手伝うようになったところ、呼吸法により健康に良いことに目を付けた高田が続いて弟子入りし、児童局時代に部下（書記室勤務）だった渡辺八重も参加するようになったという。木村忠二郎事務次官時代に厚生省内に謡の会として「誠謡会」が発足したが、高田は当初から参加しており、発足にも関わっているのではないかと推測される。文平と式子の間には上から弘、剛、薫、澄子、實、寛の六人兄弟姉妹がおり、このうち實について、高田家の姉弟はよくその家で夏を過ごし、泳ぎなど教わったという。實は東京高等商船学校卒で、一時期徴用で海軍に在籍し、一等航海士として中尉に任じられたとのことである。

内務省同期は二十六名で、採用年に由来する「一・一会」と名付けられた同期会を組織していた。同期の中には、河野鎮雄（厚生省引揚援護局長）、小林與三次（自治事務次官、読売新聞社長）、太宰博邦（厚生事務次官）、富樫総一（労働事務次官）、原文兵衛（警視總監、参議院議員、環境庁長官、参議院議長）、美馬郁夫（建設省計画局長）、百田正弘（労働省職業安定局長）、山田正雄（陸上幕僚長）、山本幸雄（建設次官、衆議院議員、自治大臣）らがいた。

厚生省人事課長時代には、すぐれた人材を確保することに務めた。高田は旧玉中・玉高会や五高の同窓会活動を熱心に行ったが、そうした中から優秀な後輩を厚生省にリクルートし、自分の部下として鍛えていた。前出の山下眞臣もその一人である。

高田浩運に関係する史料の概要

「高田日記」をはじめとして、高田浩運が遺した史料は、死後、御遺族の手によって保管・整理されてきた。高田の長男・禎浩氏は、高田の遺した史料の歴史的価値を理解され、個々の史料の有効な活用が期待できるとする施設への寄贈を希望した。そのため、寄贈先の選定にあたり

て現地を直接訪問した上で慎重に検討し、最終的な決定を行ったという。その結果、高田の史料はいくつかの施設に分かれて保管されることになった。

このうち、最もまとまった史料が、「高田浩運関係文書」(国立国会図書館憲政資料室所蔵)である。ここには、一九三六(昭和十一)年の就職時から、死の前年である一九七六(昭和五十一)年までの日記、同じく就職時から死の前年までの辞令等がまとまって含まれている。公文書類は昭和二十年代のものが若干含まれているものの、数点に留まる(榎浩氏によれば、高田は公私の区別に厳しく、公文書を自宅に持ち帰ったりしなかったためではないかとのことであった)。その他、個人資料、図書・冊子等が含まれている。

他の史料は、玉名市民図書館、玉名市歴史博物館、熊本大学五高記念館、熊本市立熊本博物館、賀川豊彦記念松沢資料館、長崎聖母の騎士修道院聖コルベ記念館各地の資料館などにそれぞれ寄贈されている。御遺族の手許には、他にアルバムなどがあるとのことである。

「高田日記」翻刻の主な内容——薬事法案作成

今回の「高田日記」翻刻中で特に充実している内容は、薬務局長として新薬事法の制定のために行っているさまざまな活動である。

その制定に至る経緯の概要については、以下の通りである(高田一九六一…緒論)。前述の通り、薬事法という名前の法律は一九四三(昭和十八)年、高田も参画して初めて制定されたが、一九四八(昭和二十三)年、敗戦後の占領下でGHQの指導により新たに薬事法が制定された。しかし、アメリカの薬事制度をもとにしたもので日本の実情にそぐわない点が少なからずあり、また医薬品産業の発展も著しく、一九五〇年代半ば(昭和三十年前後)から抜本的に見直し、さらに新しい薬事法を制定する必要性がさまざま議論されていた。しかし、その内容が極めて広範に渡るため利害関係者も多く、しばしば相反する要望が

寄せられる状況のために新法制定の作業は停滞していた。

しかし、参議院議員(自民、全国区)でもある高野一夫会長率いる日本薬剤師協会(当時、現・日本薬剤師会)などが強く新法制定を求め続ける状況を受け、厚生省は一九五九(昭和三十四)年三月、関係者間の主張を整理するため、薬事審議会に対して「薬剤師、薬局、医薬品製造業、医薬品販売業等現行薬事制度において改善すべき点」につき厚生大臣の諮問を行った。薬事審議会は同月、常任部会にて、同審議会内に新たに薬事制度調査特別部会を設置し、諮問事項の調査審議を付託することを決議した。同特別部会は七月から翌一九六〇(昭和三十五)年二月まで計十二回の会議を開き、「現行薬事制度において改善すべき点に関する答申案」を決定し、審議会では一部修正の上、同月十五日、厚生大臣に答申を行った。

厚生省では答申に基づいて薬事法、薬剤師法両案を作成し、両案は四月二十六日に閣議決定の上でただちに国会に提出され、まず、参議院社会労働委員会で審議が行われ、五月十七日、全会一致で可決された。その後、日米安保改定問題のため国会審議がストップしてしまったため、両案についての実質的な審議は行わないまま、六月から七月にかけて、参院本会議、衆議院社会労働委員会、同本会議で可決され、八月に公布された。

高田の薬務局長在任期間は、まさにこの薬事法・薬剤師法作成作業の中心的時期にあたっており、日記中には多くの関連記事が見られる。日記に見られる重要課題の一つは、薬事制度調査特別部会・薬事審議会を円滑に運営し、関係者の利害を調整し、全会一致の結論に導くことであった。このため、頻繁に関係者との面談を行い、意向聴取や説得に務めている。特に一九六〇年二月には、利害調整の困難な様子と、それをまとめ上げる高田の力量が示される記事が多い。また、もう一つの課題は、国会審議に備えて、関係の議員との接触であった。日本薬剤師会会長でもある高野はもちろん、利害関係のある団体の要望を受けた議員(あるいは前議員)との接触が記録されている。同時に、早くから、法

案内容調整等のため田中正巳社会部会長をはじめとした政策決定のための重要人物と協議を重ねている点も注目される。

おわりに

今回、「高田日記」翻刻のための作業は、城下が中心となつて行った。非常勤講師として出講している立命館大学の学部生（四月より大学院進学）である木多悠介、小林愛恵とともに翻刻のための研究会を組織し、二〇一八年二月から八月までの間、二、三月中に五回の研究会を開催し、その後、四、五、六、八月に各一回開催し、計九回の研究会を開いて翻刻作業を完了した。五月からはやはり同大学院生である海野大地も参加した。研究会で作成した翻刻草稿を、八月から十月にかけて城下とともに鹿島晶子が見直し、十月に城下が木多の協力を得ながら最終的な確認を行った。

この間、翻刻刊行について、原史料を所蔵している国立国会図書館憲政資料室に問い合わせたところ、著作権の関係から御遺族の許諾が必要とのアドバイスをいただいた。憲政資料室で御遺族との仲介はできないとのことであったが、幸い、公開情報をもとに御遺族にアプローチすることができ、七月、城下が高田の御長男である高田禎浩氏に面会し、快く許諾をいただくとともに、高田に関するさまざまなお話を伺うことができた。禎浩氏からはその後も何度もメール等でやり取りさせていただき、研究会ではなかなかわからなかった御家族・御親族関係や郷里玉名関係、さらに五高関係の人物をはじめとした情報について御教示をいただいた。その他、関係者への問い合わせをしていたり、高田の書籍を御恵賜いただいたりと、多大な御厚誼を賜っている。末尾ながら、ここで改めて御礼申し上げたい。

参考文献

人事興信所編（一九五九）『人事興信録』第二十版、人事興信所。

高田浩運（一九四三）『薬事法』松華堂書店。

（一九六二）『増補新版 薬剤師法薬事法の解説』時事通信社。

高田浩運先生追悼録刊行会編（一九七八）『追想高田浩運』高田浩運先生追悼録刊行会。

生追悼録刊行会。

『熊本大学五高記念館館報』第二号。

玉名市立歴史博物館ころろピア編（二〇〇五）『玉名市史』通史編下巻、玉名市。

玉名市。

『朝日新聞』一九五七年十月三日付朝刊。

『朝日新聞』一九五一年八月十一日付朝刊、同十二日付朝刊。松野頼三「意志強固な人」

『追想』百九十九頁、今村譲「モロハン書簡事件などの思い出」同百九十三頁、百九十七頁。

山下真臣「高田さんと私」『追想』四百三十九頁、四百四十三頁。

同右。

生地周辺は近世期には築地村で、市制町村制が施行された一八八九（明治二十二年）周辺の中尾村、山田村とともに築山村となった。その後、戦後になって一九五四（昭和二十九）年、玉名町など計十二町村が合併して玉名市が成立し、その一部となった。現在では、二〇〇五（平成十七）年に周辺三町と合併し、新・玉名市となっている。

玉名市立歴史博物館ころろピア（二〇〇五）。

高田雪太郎の遺した「高田史料」は二〇一三年七月二十六日、高田修氏（雪太郎孫）と小林一郎熊本大学教授により、富山県に寄贈され、同県立立山カルデラ砂防博物館に所蔵されている。「高田雪太郎さん 明治期の治水（富山県）で活躍」玉名市ウェブページ、<https://www.city.tamana.lg.jp/q/aview/112578.html> 二〇一八年十一月三十日最終閲覧。

厚生省薬務局長日記——「高田浩運日記」 一九五九年七月—一九六〇年六月

翻刻・城下賢一、木多悠介、小林愛恵、海野大地、鹿島晶子

凡例

- 一 原史料では改行について判然としないところがあるが、なるべく原史料の改行を尊重しつつ、内容が連続していると思われる部分については改行していない箇所がある。
- 二 原史料では新旧漢字が混在して使用されているが、基本的には原史料の表記に従っている。ただし、人名については、新漢字で表記されていても旧漢字にするなど、生前の表記に基づいて修正している。
- 三 原史料では、一部、漢字を片仮名で表記しているところがあるが、原史料の表記に従っている。この際、いちいち添字（「ママ」）によってその旨を注記することはしていない。
- 四 原史料では、同一の語句についても、捨て仮名（小書き文字）での表記と通常の仮名での表記が混在しているが、これらは全て捨て仮名（小書き文字）での表記に統一している。
- 五 原史料では、一部内容を消去し、書き直した箇所がある。その場合には、消去された語句も翻刻し、二重打ち消し線で示し、その後に訂正語句を翻刻している。消去された語句が判読不明な場合には□で示し、二重打ち消し線を付している。
- 六 原史料では、今日ではあまり一般的でないと思われる用字（自働車など）があるが、添字として「ママ」を付すのみに留めている。
- 七 ごく一部判読不明な箇所については、□で示し、推定の候補がある場合には右に添字で示した。

1. 一九五九（昭和三十四）年

一九五九（昭和三十四）年七月

◎七月一日（水）雨

午前九時半皇太子^{（明仁、美智子）}両殿下、母子愛育会に視察に御成りにつき、九時過ゆく。三笠宮妃殿下、渡辺厚相^{（良夫）}、一万田会長も出席。殿下は九時半御着。所内を一巡さる。十一時半過まで非常に熱心に御覧になる。

正午から定例の課長会議。

政ム次官更迭、新政ム次官は内藤氏^{（隆）}□。

午後七時、蔵前国技館にチエコ国立サーカスを観にゆく。この前のソ聯ヴォルシヨイサーカスよりも何だか田舎めいた感じ。終ったのは九時半過。

朝、北海道柴田君^{（謙）}に電話。上田課長の意向聴取。

◎七月二日（木）晴

朝、坂田前厚相を宿舎に訪問。約一時間雑談。

労働省渋谷官房長から大羽課長の消極的意向を聴き、午後、労働省で直接本人に会った。また夕方、谷野局長^{（せつ）}に会ひ、□く。見透しとしては難かしいやうな気がする。

夕、熊本の立山前部長来訪。

◎七月三日（金）晴

今夕から九州方面出張。

田辺次官辞任に伴う幹部の人事異動さし迫っている状況なので次官その他にも念をおし、渡辺大臣^{（良夫）}にも話し出かける。大臣はゆっくり行つてこい。自分も十三日から一週間出かけてくるというので、或は異動をもっとのばす積りかとも思った。

午後六時半あさかぜにて出発。^{〔一勇〕}三田市事ム官同行。

◎七月四日（土）晴

十一時頃、門司乗りかへ。日豊線で別府着、午後一時五九分。九州は暑い。旅館晴風荘に入る。直ちに、別府整肢園等施設二ヶ所を視て旅館におちつく。^{〔二七〕}鈴木君来訪。

夕、木下知事以下縣の関係者と會食。八時過終了。

夜、国立病院の山本副院長等来訪。^{〔清人〕}郷里の小岱君来訪。^{〔篤之〕}十一時頃まで選挙関係についての僕の将来につき話し合う。

◎七月五日（日）晴

午前九時半から公會堂^{〔別府市公會堂〕}に於て第七回九州保育事業研究大会開催約二千名の参会者として場内暑さ格別。

大臣の挨拶代読。十時半から一時間余にわたって當面の児童福祉問題から保育所問題につき講演。暑さでうだる様、ハンカチはしぼる様になった。

正午、高台の杉の井ホテル^{〔杉乃井〕}で昼食。

午後一時半から技術部会、運営部会、給食部会と廻る。運営部会ではまだかなりはげしい議論が出るかと思つて、約一時間つき合ったが、大したこととはなく、保育所問題も一段落の感がした。

午後四時二十分大分駅発。久大線で日田に向ひ杖立に向う。

日田にゆく途中は、大分川にそひ、あとでは筑後川の大流にそひ、仲々景観。七時半頃日田着。ジープで杖立湯泉に向う。山路約一時間。深い山である。途中、松原ダム建設地帯を過ぎる。地元は反対の看板。八時半頃杖立温泉着。杖立川にそひ、深い谷間の温泉である。

ひぜん屋^{〔ひぜんや〕}に宿る。

かじかの声が聞える。夜半一時頃、驟雨沛然として至り、トタン屋根をかしましたく、く。ひどい雨であつた。

◎七月六日（月）曇

朝九時二十分杖立発バスで、大観峯越え坊中駅に向う。^{〔大観峯〕}大観峯前後の景観はさすがに雄大名状し難し。

十一時半頃駅につき、縣児童課員の迎へを受け、三日市君を山に登らせ、僕は熊本に向う。十二時半頃熊本着。児童福祉関係者数氏と昼食の後、午後縣廳にゆく。さらに、福田虎亀先生宅や熊本市役所に坂口市長を訪ね、夕方松の井旅館につく。

午後六時から下通り香蘭亭^{〔紅蘭亭〕}で玉中出身の縣廳、市役所関係者と會食。

夜、さきに辞職した伴君や重石君、後、内藤部長来訪。^{〔三正〕}^{〔勝義〕}夜暑い。

◎七月七日（火）雨

午前旅館に在る。さきの知事選挙結果退職せる渋谷君、松本君ら来訪。^{〔二郎〕}^{〔虎亀〕}

岡村君、福田先生、渡辺太賀次氏等来訪につき打揃つて郊外に川魚料理を食べにゆく。話仲々はすむ。昨日から坂口市長からは金峯山に登ることをすゝめられたが雨天のため果さず。三時水前寺、東塩屋^{〔寺本氏宅〕}で知事部長等の招待の予定に行つたが、縣議會、自由労ム者交渉でとう／＼来れない。立山前部長来る。六時頃辞去。

自動車で玉名にかへる。途中、田原坂を過り、遺跡を見、説明を聞き、坂を降る。午後八時頃築地の宅に到着。^{〔龍〕}^{〔幾平、アイ〕}両親とも健在。

電報二通。一つは小沢医ム局長辞職、後任川上六馬氏。一つは事務次官からすぐ帰任せよと。後者は四時頃到達。これは困つたことになった。若い者を連れて自轉車で駅にゆき、時間表を調べたところ、結局、明日午後発の「はやぶさ」が一番適當。それより外にないということになり、特急券等、熊本駅に問ひ合せてもらつたら一枚あつた。三日市君分の三等はないが致し方ない。

駅をすましてから高木鉄二郎に寄り、電話をかける。

熊本の三日市君に指示。やがて知事からことわりの電話あり。ついで、東京の森本氏宅に電話。^{〔潔〕}十時過に出たが不在。用ムをこと傳し、家に

かへつたのが十時半過。

来客、小岱君等。^(篇之) 十二時近く就寝。座敷前の泉水に蛙の声喧ましく、仲々ねつかれず、暑さと共に轉々反側。

◎七月八日(水) 雨

夜来雨。朝も雨烈しく降る。

九時頃、荒尾の古閑、鴻江、北野氏来訪。^(篇之) 小岱氏も来訪。

十時頃一同辞し、雨も小降りになったので山に墓参に出かけたが途中から横なぐりの豪雨。かさをさへているのがやつとである。墓の近く、果樹畑のところに行つたが、もうどうにも行けそうにない。低回暫し、心をのこし乍ら引きかへすことにした。やがて高下駄の鼻緒が切れて轉んで、ひざと手を怪我した。雨は依然猛烈。尻からけても衣物はぬれる、血はながれる、はだしでやつとこさ歩くも情ない姿である。ところ／＼道は水に填っている。家についたときは、シャツもパンツもぬれていた。いそいで仕度をと、のへ、十一時、熊本から迎への車にのつて出発。十二時頃縣廳に到着。

厚生省森本官房長に電話。十日発令の予定にて進行。^(紫雄) 田辺次官辞任。後任は安田社会局長、そのあと高田正巳、そのあと葉ム局長に僕、児童へは大山君。^(正) 一方、山本内閣総ム課長、厚生省へ復帰。その後任に今村君^(謙) と思つたが、保険から離せないで梅本企画課長をと。次に葉ムの課長に山田眞澄君をとという話であつたので、その点は困る、再考されたと要望。何れ課長人事は帰京後打合せる事にする。

午後二時十八分寺本知事以下の見送りをうけ熊本駅発。^(広作) 疲労が出て頭痛。夜は食事もとらず早くやすむ。

◎七月九日(木) 晴

午前九時半東京着。昨夜よくねたので気分多少よくなる。

直ちに登廳。^(田辺繁雄) 次官、官房長、人事課長等と打合せ。梅本君轉出の件本人に未連絡なりしを以てはじめて本人に傳へる。本人はそう気は進まぬら

しいが止むを得ぬと納得させる。

田辺次官から前後の経過詳しく話あり。課長人事は新次官の手許で改めてと。

おひる、局内課長会議。

午後三時頃退廳。禎浩を病院に訪ねたのち帰宅。

◎七月十日(金) 晴

朝、北海道に柴田部長及び町村知事に電話。^(金五) 上田福祉課長を児童局へもらう件交渉。知事は同女史左派方面と密接なる点を心配していたので、この点前に一応調べたが更によく調べた上ということにする。

次官局長クラーズの人事、今日の閣議にはかり発令。午後二時、新田次官の廳員一同に対する挨拶あり。そのあと次官室で懇談。^(田辺繁雄、安田巖)

午後三時、葉ム局で局員幹部に対し新田葉ム局長挨拶。^(高田正巳、高田浩達) 午後三時半、児童局で大山君と共に局員に挨拶。午後五時過から児童局内でビールを飲み乍ら別れのパーティー。

六時頃帰へろうとしているところを森本氏^(源) によびとめられ、結局八時頃まで、課長人事のことだが、今日は格別のことがなかった。

◎七月十一日(土) 曇

禎浩今日午後退院につき朝東一にゆき、小原、小山両医長等に挨拶。^(東京第一病院)

その途中、森本氏から課長人事につき電話。^(謙) 山田君を薬事課長にとの事につきそれは同意し難しと役所にとつてかへし、種々交渉。このため難行したが僕が絶対によづらぬ姿勢をよつた氣組を変へないので結局、森本氏の方で高田社会局長等と交渉。^(正巳) 山田君を社会局に廻し、葉ムは、企業竹下、薬事広瀬^(精紀) ということ決定。僕の方もこれを了承。^(治郎) 児童の方は、梅本君の後任、希望通り、伊部君に決定。^(純正) 尚、官房は一寸意外だったが、熊崎を會計に廻し人事は、企画は大崎の予定。^(正太)

五時近く帰宅。禎浩元氣に帰宅。これで久しぶりに一家そろつた。

◎七月十二日(日) 晴

午前、薫と共に買物に出かける。

午後、弘睦子女史他来客。

◎七月十三日(月) 晴

朝、松野父子宅訪問。
(鶴平、頼三)

午前、三宮家及び東宮仮御所、大山君と共に挨拶に廻る。
(秩父宮、高松宮二室宮)

午後、法務省その他を挨拶廻り。

午後五時羽田着の葛西さんを迎へにゆく。思ったより元気である。
(嘉資)

◎七月十四日(火) 曇

朝、徳川家正氏、黒川氏訪問挨拶。
(武雄カ)

午前午後とも関係の役所、国会方面等挨拶。

正午から定例の局長会議。

◎七月十五日(水) 晴

昨夜は風強く、ドアのきしみが耳ざわりだった。颱風来かと思ったら今日は思ひかなくもいゝ天気になった。

朝、安井前知事訪問。午前、挨拶廻り。
(誠一郎) (東京部)

午後、大山君と児童局関係、高田君と薬ム局関係事務引継。
(正巳)

◎七月十六日(木) 晴

朝、慶応病院に入院中の林先生を見舞う。昨日手術をしたと、経過良好との事。
(謙吉)

午前十一時過まで挨拶廻り。

午後薬ム局の予算局議。

夕、薬務局課長以上、人事異動に伴う歓送迎会。

◎七月十七日(金) 晴

朝、小畑先生を宅に訪う。約一時間懇談、雑談。
(惟清)

午前午後、予算局議。課長諸君に局員の業者との宴会等自粛要望。

夕、謡の稽古。

◎七月十八日(土) 雨

朝、山縣前大臣外挨拶廻り。
(勝見)

午後二時、社会事業會館で社会福祉関係者参會。田辺前次官、安田新次官以下今回の社会福祉関係異動組を招いて歓送迎會。
(繁雄)

三時過散會。一旦、役所にゆき五時から第一公邸に於て、局長會ギメン

バーで田辺前次官の送別會。

熊本から受島君、あそ号で上京との事につき東京駅に迎へに行つたが既にきりしまでついていた。

◎七月十九日(日) 晴

受島君、首都高速道路公園の採用試験に出かける。
(純正)

梅本君、亀海君、植山女史、中村君等来客。
(清三) (和彦)

◎七月二十日(月) 晴

朝、高木憲次先生を宅に訪う。元氣であつた。非常に喜ばれた。

午後、薬事審議會の議事進行次第等につき打合せ。

午後六時から次官局長連を堀木前大臣招待、出席。
(謙三)

◎七月二十一日(火) 晴

朝、松尾仁氏を宅に訪う。

午後、予算局議。

◎七月二十二日(水) 晴

朝、大井の宅に緒方章氏を訪問。

朝、大井の宅に緒方章氏を訪問。

正午から定例の課長会議。
受島君、試験成績不良、不合格。

◎七月二十三日(木)晴
朝、受島君を伴ひ^(首都高速道路公団) 高速道路公園の美馬君を訪う。受島君今日離京。
そろ／＼挨拶状の発送準備にかゝる。
午後五時から薬務関係新聞記者と會談。七時散会。

◎七月二十四日(金)曇
朝、建設省の鬼丸君^(勝之)に受島君の履歴書を托す。
十二時半、SASで田辺前次官夫妻^(素雄)歐洲に向け出発。見送る。
午後二時第一公邸に於て薬事協議会。
五時、帝国ホテルに於て全国化粧品工業連合會^(日本化粧品工業連合會)發會式。
六時過、鶴見元厚相^(祐輔)の厚生省幹部招待、国際文化會館に於て。八時近く散会。

◎七月二十五日(土)晴
暑さ加はる。
午後二時河合亀太郎氏の告別式に出席。
午後五時半、本山の母^(式子)及び薫と共に新宿御苑に薪能を見にゆく。

◎七月二十六日(日)晴
午前テニス、午後昼寝。

◎七月二十七日(月)晴
午後一時半から永田町の薬業會館に於て薬事審議會開會。先般改選のあ
と最初の會合である。緒方先生を引き続き會長に選任、部會編成等三時
過ぎかゝ総會終了。同時に薬事制度特別部會開催。刈米氏^(達夫)を部會長に選
任。今後の運営等につき協議の上、五時近く終了。

午後六時から松本楼で大山^(正)、梅本^(純正)、伊部君^(英男)と四人で児童局関係事務引継
ぎ打合せし乍ら機微の点につき詳細話合う。十時半散會。

◎七月二十八日(火)晴
各課の事務説明を聞く。
正午から定例の局長會議。
午後七時四十分横浜桜木町駅前、大蔵省の鳩山氏^(威二郎)、辻氏一行と落ち合
ひ、麻薬課長以下取締関係者一行を伴ひ、麻薬取締の現場視察。初音町
末吉橋附近、立売及び屋内捜査。この附近は軒並みらしい。ついで東京
にかへり、九時半過新宿に来る。自働者で駅中央口からガード下、旭町、
新宿二丁目、番衆町、三光町、花園町、歌舞伎町、柏木のバタヤ部落等
を至て中央口で十時半近く散會。

◎七月二十九日(水)晴
今日も事務説明聞く。
正午から薬業會館における全国^(医薬品販)卸業連合會の發會式に出る。二時頃
帰廳。そのあと、予算問題につき局議。
午後六時半から大森東口に、局長會議メンバーに、寺田勤氏、大川秀三
氏を加へ、大臣が招待。実は、寺田氏の勘心元で、納涼懇談會。愉快也。
十時頃帰宅。

◎七月三十日(木)晴
午前午後、局内事務説明聴取。
堀岡君の富山縣民生部長への轉出に伴う人事につき、夕刻、官房長^(森本潔)を中
心に公衆衛生局長等と打合せ。これは、堀岡君富山縣民生部長へ、現部
長^(尾村伸久)大熊氏官房科学技術参事官へ、現参事官長友氏精神衛生課長へ、とい
う一連の人事であるが、公衆衛生局方面に薬系の大熊君の参事官へ、堀
岡君轉じたる場合、富山縣民生部長に薬系を推せんすることにつきての
不満あり。参事官はなるべく早く医系に、部長の推せんは白紙という線

を出してきたるにつき、薬務としては、部長へ薬系推せんを確保せんとし、結局僕の意見で、公衆衛生局は、参事官の速やかなる復元を、薬ム局としては部長に薬系推せんを強く官房に申入れたることにして、一応落ちつかせることにして散会。

◎七月三十一日(金) 晴

午前十時から東大医学部会議室に於て薬剤師国家試験審議会開催。

午後一時半、大臣兩次官に、次年度重要政策説明。約一時間。

午後、桜井前知事、中村幹尚君等来訪。

夕、謡の稽古。

そのあと、熊本の内藤部長、立山君、竹下君等と會談。

一九五九(昭和三十四)年八月

◎八月一日(土) 晴

十時半高野氏来訪。参議院社労委代表で高松、下関、福岡等を視察したところにより所謂乱売問題につき話あり。種々協議。

午後挨拶状を出すべき名宛の名簿整理。

そのあと、買物に。

監視監臨官室の植田事務官、今日午後、帰りぎわに厚生省前の道路で自動車にはねられ、日比谷病院に入院、重体。

◎八月二日(日) 晴

暑さ格別。午前、テニスに行ったがうだる暑さである。

午後昼寝。

◎八月三日(月) 晴

自 労委を中心にした総評デモ隊厚生省におしかけるにつき門を閉し

て護り嚴重。

このさわぎをよそに僕は薬事課長と共に用賀の衛生試験所を視察にゆく。午後四時辞去。

夕、日比谷病院に入院中の植田君の家族を見舞う。

◎八月四日(火) 晴

正午から定例の局長會議。

午後、事務説明聴取。

午後五時から赤坂プリンスホテルに於て、日本製薬団体連合会等薬事関係団体主催の新旧局長課長歓送迎会あり出席。

◎八月五日(水) 晴

正午から定例の課長會議。

菅野君、今朝自働車事故で頭部怪我。

◎八月六日(木) 晴

今日から薫及び禎浩とともに山中湖にゆく。

午前八時四〇分の小田急で発。車中秩父宮妃殿下も御一しよの車である。

十時半頃、御殿場に着。山梨縣の内藤保険課長が車で迎へにきてくれていた。約五十分旭丘の健康保養所に落ちつく。湖も近く、山の氣溢れんばかりにいてい、所である。昼食後一休みして、湖に泳ぎにゆく。あとで風が出る。湖心にこぎ出たボートをこいでもどるのに一苦勞。

◎八月七日(金) 曇

朝八時四十分旭丘発のバスで薫とともに河口湖にゆき、十時河口湖から五合目行きのバスで発。三合目あたり雨。正午近く五合目着。昼食のち御庭へ。雨殆んどやむ。途中、遠望はきかざるも富士の景観味う。御庭から奥庭へ、ついで三合目に歩いて降る。原生林の中、静寂の中をゆく。三合目に近くなるにつけ、雨本降り。ぬれて三合目小屋に入り、バ

スで河口湖へ。それから旭丘^(旭丘)へ。五時頃着。途中のバスで江下君と偶然一しよになる。颱風日本に接近多少荒れ気味になる。

◎八月八日(土) 雨

終日雨。午後一寸散歩に出た以外に部屋に入りつきり。川田貞治郎氏の憶出の原稿書いたり、小説を読んだり。^(明)
夜、山梨縣の田川国民年金課長来る。

◎八月九日(日) 雨

明日、両院の社労委あるにつきどうしても今日帰京しなければならぬ。禎浩だけ残す積りだったが、都合により同行のことにする。

十時頃もと保険局の数理^(管理)参事官鈴木、家族と共に来泊。

十一時頃、宿舍を發ち雨の中を御殿場に向う。田川君送ってくれる。

○時二十三分の小田急で帰京。

二時半頃帰宅。恭子と祥三、六日に實君^(永山)の宅から帰り、眞黒にやけている。

◎八月十日(月) 晴

爽秋の感急に涼しくなる。

午前十一時、参議院社労委に出席。同委員會の視察報告あり。高野議員^(二夫)からスーパーマーケット^(マ)のによる薬濫売の件を含め。

◎八月十一日(火) 小雨

正午から定例の局長会議。そのあと保健文化賞^(マ)詮衡。午後三時半、東京會館に住友化学のパーティーに出席。

◎八月十二日(水) 雨

午前午後、来年度予算に關聯しての重要施策につき國會の田中氏外各氏^(正巳)を訪う。

正午から定例の課長會議。

◎八月十三日(木) 曇
午前十時から自民党本部に於て社会部會。三五年度重要政策審議出席。午後二時終了。

◎八月十四日(金) 晴

夜来、颱風の影響で雨烈し。特に明け方、風強く、雨強烈に戸をうつ。七時頃に至りやむ。

颱風一過さわやかな天気。

午前、五高の同窓、琉球政府の官房長知念君^(朝功)来訪。昼食を共にする。久しぶりに時間の余裕あり。

夕、謡の稽古。

◎八月十五日(土) 晴

朝、禎浩^(東京第一病院)を東一^(辰三)に、小原先生の診察をうけにつれてゆく。

児童局書記室で新旧局長の歓送迎会の意味で明日日谷川温泉に一泊旅行。

一行^(正)大山君と僕、中村書記等^(和彦)八人。午後一時近く上野発の汽車で四時頃水上につき、水上から自働車^(マ)で約三十分、谷川温泉金盛館に泊。谷川をひかえたひなびた旅館である。川のせせらぎやかましい位。

◎八月十六日(日) 晴

八時半過出發。天神峠に登る。

天気はよし。日は強く、草の茂れる道を登るのは暑い。川の水がためたくておいしい。天神小屋を過ぎ、峠に出たのは十一時頃。一行落伍なし。谷川の頂上、それに至る尾根の道よく眺望がきいて美しい。昼食をすまし午後一時近く出發。下山にかゝる。午後三時近く帰着。

湯に入つて、四時過出發。五時頃乗車。車中混雑。日曜日とお盆のせいか。

◎八月十七日(月) 晴

暫らく涼しかったがまた暑さふりかへし。⁽⁴⁴⁾

午前、周東英雄氏を訪う。ついで星野氏を訪ね、種々話を聞く。^(獅子郎)
午後来客多し。

◎八月十八日(火) 晴

午前、竹内甲子二氏に會ひ、業務関係種々話を聞く。
正午から定例の局長会議。

◎八月十九日(水) 晴

関係各団体から陳情乃至意見を聞くこととし、今日□日本薬剤師協会の幹部にきてもらひ、午前中意見を聞く。薬事法改正、薬局^(註)聖濟の安定等につき意見あり。
正午から定例の課長会議。

◎八月二十日(木) 晴

午前九時半から全国麻薬取締官事ム所長会議開催。午前中出席。
午後予算案再度検討。
午後五時半、血液銀行協会に高田^(正巳)前局長と共に招かる。

◎八月二十一日(金) 晴

暑氣連日烈し。
午前十時から日本製薬団体連合會関係者来てもらひ、意見を聞く。
午後、予算勉強。
午後七時、成田一郎氏宅に同氏の四十九日忌に出席。

◎八月二十二日(土) 晴

午前十時から医薬療品輸出組合の関係者に来てもらひ、話を聞く。
午後、大丸に買物に。

^(「文平、式子」)
本山の両親今日山中湖から帰宅。

◎八月二十三日(日) 小雨

昨日は今夏最高の高温三十五度。
今日はうってかわって秋涼。

腹工合多少不調。午前臥床休養。

午後四時、関忠義氏^(博之)長男と吉田重建氏長女の結婚見合の意味で新宿東京會館に會合。毎日の上村氏が吉田嬢をつれてくる。両方とも感じのいい人である。約三十分一しよにいて、上村氏と僕はさきに辞去。別席で歓談。

◎八月二十四日(月) 小雨

小岱篤之君昨夜来訪泊す。玉名地方の四方山の話、及び僕の選挙上の将来の問題につき話す。夜半一時半にいたる。同君今朝発ち、中央線廻りで離京。

正午、印度大使館員〔空白〕氏、阿片購入の件につき来訪。

午後二時から第一生命館に於て、保健文化賞審査委員會、出席。薬の關係では、武田の研究所が受賞と決定。^(武田薬品工業株式会社研究所)

◎八月二十五日(火) 晴

正午から定例の局長会議。
午後、予算の説明きく。

◎八月二十六日(水) 曇

午前午後、予算の説明をきく。
アキ子^(三)口紅の件にて陳情。横山、^(薫カ)松岡氏等。
朝児童問題調査会の林氏^(久雄)来訪。

◎八月二十七日(木) 晴

今日二日間、午前九時から大臣室で予算省議。今年は割合に進みが早く、午前中に公衆衛生局本局の分は終り。薬務局は午後八時頃から十時まで一部を残しあらかた終了。

◎八月二十八日(金) 晴

今日も午前九時から省議。

午後十一時近く全部終了。

局にかへり、退廳したのは十二時過ぎだった。疲れた。

◎八月二十九日(土) 晴

連日の暑さ格別、夜も仲々に冷えず。

午後二時過ぎ退廳。役所も暑い、宅も暑い。

◎八月三十日(日) 晴

午前テニス。暑気格別。

午後、熊本の清田氏来訪。

寛君一家今日逗子の山縣家に引越し。

◎八月三十一日(月) 晴

予算の後始末多少。

一九五九(昭和三十四)年九月

◎九月一日(火) 晴

正午から定例の局長会議。

午後一時半、薬事制度調査特別部會、午後四時過まで。

夕、毎日の上村氏、竹下君と歓談。

◎九月二日(水) 晴

昨日、今日の暑さ格別。

午前十時十分から十一時半迄警察大学に於て、児童福祉に關し講義。
大山局長の代りに依頼されたもの。

正午から定例の課長會議。

午後一時半から虎ノ門共済會館に於て薬事審議會常任部會。マイトマイシン等新医薬品許可決定。三時過終了。

午後六時、美竹會館に於て渡辺厚相を囲み、小倉警視總監等、警視廳側、厚生省側有志歓談。

午後十時、東京発の彗星号で西下、大阪京都等、薬業視察の途に出かける。随行黒田事ム官。

◎九月三日(木) 晴

朝八時四六分大阪着。旅館上むらにゆき休けい。十時、同所に於て縣府薬剤師協會幹部の陳情を聞き、十時半府廳にゆく。古野衛生部長、高田、田中両副知事等に會ひ、次に大阪衛生試験所支所、麻薬取締官事ム所を視察。

正午、武田、塩野、藤沢、田辺、①の五社社長の會合に招かれ、昼食を共にす。

午後、武田の十三工場、ついで田辺の加島工場視察。午後六時から、つるやにて医薬品工業会の懇談会出席。

八時過辞去。

◎九月四日(金) 晴

午前九時過、森下仁丹、ついで、塩野義杭瀬工場視察。

正午、西部衛生材料協同組合の懇談会。觀光ホテルにて。午後、川本綱帯材料KKへ、南へ約一時間。五時頃旅舎に帰着。五時半から家庭薬協会メンバーと懇談会。七時半辞去。

ついで、別の家にて、武田氏と會ひ、二人だけで約二時間懇談。一、研

究發賣製品の優先権の事、二、濫売対策、三、広告対策、映倫の如き構想には氏は消極的、役所でやれと。四、ポリオワクチン用猿の確保供給方途。午後十一時辞去。

◎九月五日（土）晴

八時四十分、旧京阪特急で天満駅発。

九時半近く京都市。直ちに京都府廳にゆく。^{〔天満橋〕}
^{〔衣川純三〕}衛生部長、副知事等に會ひ、

午後前十時半、島津製作所を視察。昼食の後、午後、日本新薬工場を視察。龍安寺を過り、武田薬品の京都試験農場を視察し、五時半、日本新薬、^{〔府〕}縣関係者に懇談。

午後八時半辞去。迎へに来てくれた滋賀県の岸野厚生部長の車にて比叡山にのぼり、夜景を愛で、十時頃、膳所の宿舎。紅葉館別館に入る。^{〔後太〕}
^{〔全日本亡人団体協議会〕}未亡人協会の守田女史来訪。

◎九月六日（日）晴

旅館を琵琶湖畔に位置し、朝の景色宜ろし。瀬田橋附近で、英国オクスフォード大学^{〔オックスフォード大学〕}のボートレースあり、朝から何とはなしにぎやか。

午後九時出発。自働者^{〔自働者〕}で約一時間。滋賀県薬事研究所^{〔滋賀県薬事研究所〕}、滋賀県製薬工場視察。工場は普通日曜日休日なところ、僕の視察のため、ふりかへ

作業したるものらしい。家庭薬工場なるも試験検査のシステムとり入れ、仲々がつつりやっているのは予想以上だった。

午後一時旅舎帰着。桂木副知事に會いたる後、^{〔鉄夫〕}縣内薬事関係主脳と懇談。三時過辞去。三時五十九分大津発。

名古屋に向う。五時五十四分名古屋着、直ちに懇談会の席にゆく。

六時過から今堀氏はじめ縣内の薬業関係者會同懇談、九時頃辞去。宿泊。

◎九月七日（月）晴

午前十時、縣廳にゆく。^{〔東海北陸地区麻薬取締官事務所〕}麻薬取締官事ム所視察。十一時から縣の薬剤師

会幹部と懇談。というより先方の意見を聞き、その間、岡崎から陳情團^{〔岡崎薬業協同組合〕}（小売同業組合）代表に會ひ、昼食の後、午後犬山のモンキーセンター視察。名鉄病院の山崎君同行。

午後四時五十分、名古屋駅発帰京の途につく。^{〔文雄〕}國吉君同車。午後十時二五分東京帰着。

※上欄外 国警の本庄君、保険課長の鈴木君等に會う。^{〔正信〕}

◎九月八日（火）晴

午前十時から参議院社労委にて高野氏より^{〔夫〕}薬業^{〔経〕}聖済^{〔経〕}に關し質問ある予定につき、いつもより早く九時登廳。準備打合せ。

十時過ぎから開会されたが、薬務関係の質疑は延期。正午から定例の局長會議。

本日の閣議で、^{〔経〕}先般のソ聯からの小児マヒ用ワクチンにつき、正規の通関手續を^{〔経〕}至て入国させる様にしたと外相から報告あった由、この問題一寸こじれそうである。

◎九月九日（水）晴

朝、林野廳の藤田宗美君来訪。

正午から定例の課長會議。

午後三時から^{〔雄〕}浅野君と共に横浜山手病院に^{〔M.C. Morton〕}ジョンソン夫人を見舞にゆく。^{〔Harry G. Johnson〕}モルトン博士居合せ案内してもらった。ジョンソン博士は宅に居られたので、そこを訪ねる。皆久しぶりである。夫人は肺病で快癒の見込なき模様。

◎九月十日（木）晴

ソ聯ワクチンの問題で^{〔山崎岩男〕}青森縣知事来訪。午後四時、厚生省の検定等について^{〔山崎岩男〕}の考へ方につきN. H. K. テレビに撮影。

午後六時から下落合、山月荘に於て戦時中の旧薬^{〔か〕}ム課^{〔す〕}グループ^{〔会〕}會同。僕の局長就任を祝っていただく。會するもの、^{〔甲子二〕}竹内、^{〔後二〕}井川、^{〔龍吉〕}相山、^{〔栄蔵〕}大西氏

等の技師、^{〔文雄〕}国吉、^{〔利雄〕}小西氏等三十名近く。その當時の者一度會したいと思つていたところ機熟して本日の會同となつたもの。歓談尽くるなく、一同非常に愉快。九時近く散會。

◎九月十一日(金) 晴

午前九時半から衛生材料工業會、^{〔日本衛生材料工業連合會〕}十一時から農藥工業會關係者来てもらつて話を聞く。

午後一時、フィリップン厚生大臣、^{〔良夫〕}渡辺厚相を訪問、立ち會う。

今日、各府縣の藥劑師會長の會議。

午後、高木光広君來訪。

夕、謡の稽古。

◎九月十二日(土) 晴

午前九時半から化粧品工業會代表から話を聞く。^{〔日本化粧品工業連合會〕}

午後三時から森本、^{〔潔〕}田中両氏と目黒の次官官舎で謡「藤戸」の稽古。

五時半から富山から上京中の堀岡君を送別會といふことで次官^{〔吉次〕}以下會食。^{〔安田〕}

◎九月十三日(日) 曇時々雨

多少疲労氣味につき午前臥床静養。午後高木光広君來訪。

ソ聯、月ロケット発射。

◎九月十四日(月) 曇

午前九時半から齒科機械工業會の代表から話を聞く。

午後一時半、松尾仁氏に大臣の感謝状、藥ム局から紀念品。^{〔日本藥劑師協會〕}

二時から三時迄衛生検査技師法の件で藥劑師會代表と懇談。

三時過、水上君の就職の件で浅見氏訪問。^{〔国立予防衛生研究所〕}

午後四時近く、予研につき、ポリオワクチンの製造、検定に關し説明を聞き、施設視察。

ソ聯月ロケット、月に到着。

◎九月十五日(火) 晴

午前九時半から、注射筒、針の工業會代表より話を聞く。

午後二時半から第一生命ホールで保健文化賞授与式に出席。

午後六時から東京會館でその會食。

◎九月十六日(水) 晴

午前九時半から^{〔日本医療器械商工団体連合會〕}医科器械工業連合會代表から話を聞く。

正午から定例の課長會議。

二時から麻藥対策連絡會議。

午後六時から「家庭における児童」出版を紀念して児童局の關係者と共に會合。児童問題調査會の^{〔久雄〕}林氏主催。

◎九月十七日(木) 曇

颱風十四号で九州荒れる。

朝大藏省鳩山氏^{〔威一郎〕}を訪問。

來客多し。

午後一、三〇分ドラッグマガジンの^{〔後市〕}安藤氏と対談速記。

◎九月十八日(金) 晴

午前十時から血液製劑協會の代表から話を聞く。

夕、謡の稽古。

◎九月十九日(土) 晴

正午、桜井三郎氏と會食。

午後二時過から拙本山宅にて、森本、^{〔潔〕}田中両氏と、^{〔文子〕}本山の母を師として

謡「藤戸」を稽古。夕刻まで猛練習。そのあと拙宅にて、會食し乍ら更に稽古。十時半頃散會。

◎九月二十日(日) 曇

午前テニス。

午後、山下君母堂と共に来訪。

そのあと、庭で烏瓜の根をほり廻る。

◎九月二十一日(月) 晴

武田、エーザイ両社に学生の就職の事でゆく。

午後一時半から薬事制度特別部会。薬剤師、医薬品の定義等につき論議。医薬品の分類持ちこし。

◎九月二十二日(火) 晴

午前十時から日本ブラッドバンクの社長以下幹部の話を書く。

正午から定例の局長会議。途中から衆議院社労委。瀧井氏の質問。

三時近く帰廳。ペニシリン協会の藤沢會長、鈴木氏来訪、話を聞く。

五時からクラブ関東で、日薬連理事会のパーティーあり。渡辺厚相、

田辺前次官とともに出席。そのあと、六時過から津久松で十社の社長等との會合。渡辺厚相、新田次官、高田前局長とともに出席。

◎九月二十三日(水) 曇

午前九時半から齒科材料関係者。

十一時から麻薬製造三社関係者から話を聞く。

十一時、健康診断。血圧、一五八に一一〇で一寸高過ぎるのもう一辺あらためて診断のこと。

正午から定例の課長會議。

午後三時から八芳園で全国配置売薬業者の會同、出席。

◎九月二十四日(木) 曇

矢来能楽堂で誠誼會。僕は藤戸のシテ(ワキは森本氏)で出演につき先日来練習。正午過本山の母及薫と共に出かける。

〔順〕 畠中氏、砧の披き、よく出来た。

藤戸は夕方五時半過。まあよく出来た方か。六時半終了。

◎九月二十五日(金) 曇

朝、田園調布の宅に小村一恵氏を訪問。十一時近く辞去。同じく、加藤於兎丸氏宅を過り登廳。

午後一時半、細菌製剤製造業者代表の話を聞く。三時頃終了。

午後六時、本郷の後楽ホテルにゆく。郷里の玉名高校修学旅行一行上京。校長も上京につき一応在京玉中会として挨拶にゆく。田上貞雄君もきていた。

七時、高野一夫氏の招きに出席。各課長出席。

◎九月二十六日(土) 雨

颱風接近。強い雨屢々至る。夜に入り風漸く烈し。颱風も紀伊半島に上陸の様子。強烈な颱風として影響範囲拡大。

午前十時半から薬事審議会用具部會。

午後、明日薬剤師国家試験の颱風来の対策検討。

戸部二郎君咯血で急逝。今日吉祥寺の自宅で告別式につき、午後二時往訪。星野、中村両氏も見えていた。

帰途中川望氏を訪ねたが留守。

◎九月二十七日(日) 晴

昨夜十二時前後から颱風のピークに当たたらしく、時折猛烈な風が吹きつける。雨は余り降らなかった様だ。しかし、宅は被害とてなく、幸ひ。朝は美しい太陽がぎら／＼照っている。颱風は、三重、愛知、岐阜等到大被害を与へ、中部地方を縦断して、新潟にぬけ、秋田を至て青森北海道方面へ。新聞の報ずるところによれば死者、行方不明二千数百に及び、家産、船舶等の被害も甚大。最近歴史上三番目の猛威をふるったとの事。今日は颱風一過とよくいったものでさわやかな秋晴れ。

終日家の周りの小修繕や片付けものをする。
薬剤師国家試験無事執行。

◎九月二十八日(月) 晴

朝、久保君来訪。

正午から、小村一恵氏社長の東黎工業の小型バッテリーの説明会。帝国ホテルにて。戸塚九一郎氏等も見えていた。おかれて一時頃から始まったが、御客数百人。カクテルかと思つたら本当の昼食である。小村氏らしく大きくやったものである。二時半終了。

午後三時、日本テレビ、ソ聯製小児マヒワクチンのことで録音。
そのあと、七時迄、薬価基準収才基準につき局内打合せ。

◎九月二十九日(火) 晴

午前十一時、横浜のチャペル・センターでジョンソン夫人の葬儀行はれるにつき出席。十一時半頃終了。

正午から定例の局長会議。

午後一時半から医薬品卸売業者の代表の話を聞く。
(日本医薬品卸売者連合会カ)

午後五時から赤坂プリンスホテルに於て細菌製剤協会主催でボーズマン氏の歓迎会あり出席。ボーズマン氏のもとG. H. Qに勤務していたもの。

七時半、武田社長の会に出席。(三男カ) 湯沢、(弘吉カ) 灘尾、(忠三郎カ) 木村、(巖カ) 安田等の諸氏出席。

◎九月三十日(水) 曇

正午から定例の課長会議。

昨日に引き続き薬価基準の問題検討。

午後六時、参議院會館で熊本縣人会開催。(鶴平) 松野議長、(頼三) 松野芳相の祝賀会。

一九五九(昭和三十四) 年十月

◎十月一日(木) 少雨

午前九時から上級公務員採用試験に立ち会う。六時過まで。

◎十月二日(金) 雨

今日も採用試験。午前中立ち会う。

午後、薬事法改正問題等打合せ。
夕、謡の稽古。

◎十月三日(土) 晴

採用試験、今日まで。

薬ム局書記室で房総へ一泊旅行。僕を含め総勢十二人。午後一時二十分新宿発。小湊にゆく。列車は大変な混雑。僕の外一二人の外は立ちっぱなし。午後四時頃、小湊着。旅館、小川家に落ちつく間もなく、鯛の浦(僕はゆかなかった) 誕生寺、水族館。六時頃旅舎に帰着。

同旅館に法務省の一組投宿、騒ぎやかましくて閉口。深更までやまず、睡眠意の如くならず。

◎十月四日(日) 晴時々雨

朝九時半過の汽車で外房を下り千倉下車、バスで白浜下車、バスで歩いて野島崎へ海女の実演を見、燈台に昇り、渚を歩き、二時バスで出発。館山から列車にのり帰途につく。途中から相当な混雑。午後八時近く帰宅。

◎十月五日(月) 曇

午前十時半、三共の河口氏、医薬品の広告及び三者協議会の問題で来訪。午後一時半から薬事制度調査特別部會。今日はかなり、薬剤師協会側と議論した。午後五時散会。

◎十月六日（火）晴

正午から定例の局長会議。

午後二時から安原氏に来てもらひ、ポリオワクチンの猿の問題につき懇談。

◎十月七日（水）雨

颱風十六号の気はひ濃厚で雨。

午前十一時から第二記者クラブの諸君と薬と健康の週間に際し、懇談会。

正午から定例の課長会議。

名古屋の災害対策本部に現在、尾村局長が行っているが、今週末から僕に滞在一週間の予定で交替してくれとの森本官房長の申込みあり、検討の結果行くことにする。

◎十月八日（木）晴

午後一時半、馬島側氏ら渡辺厚相を訪ねソ聯ワクチンの検定に関し、陳情。その際の氏らの話によれば製造記録はソ聯側では、Dr. 高森に送っているといっているが、それがどこの誰か分らないということであったが、あとで中原細菌製剤課長が、若しや、予研の竹森氏ではないかと思ひ電話したところ、その通りでパスポートと称するものが来るとの事判明。対策打合せ。

薬事制度調査特別部會の委員補充につき打合せ。午後三時、三共^{〔万平〕}に鈴木氏を訪ね日薬聯からの推せん依頼。

午後七時から赤坂で一一會。
謡の稽古。

◎十月九日（金）晴

委員追加の件、星野・刈米氏らに打合せを遂げ、終に、大槻先生等につき電話で依頼。

ソ聯ワクチン、製造記録の件 予研側と打合せたる結果、この俣お

さへることなく今日発表してしまう方針を定め、大臣、次官等と打合せの上、二時半クラブに発表。

午前九時半、災害対策連絡會議。午後、高田社会局長等と打合せ。名古屋出張の準備をと、のへる。

午後四時半、日本短波放送、薬の週間にちなんでの録音十五日放送の予定。

◎十月十日（土）晴

多少風邪気味ため頭微痛。

午前十時半から医薬品販売の二号業者の代表の話を聞く。

午後一時半、西海で名古屋に向け出発。車内かなりの混み方。午後七時半頃、名古屋着。直ちに縣廳にゆき衛生部長室に入る。厚生省から派遣の尾村局長、代田、白崎両事ム官等から報告を聞く。約一時間いて、旅

舎早々に引き上げ休む。縣廳側はまだ居残り、いつも十時十一時になると。

◎十月十一日（日）晴

朝九時半、縣廳にゆく。十時から災害救済の小委員會、出席。尾村君主宰。それに先立ち麻薬取締部事務所、警察等廻る。小委員會では災害救済、防疫の關係議題となる。

正午頃終了。新聞発表。災害対策委員會に内閣から派遣出張中の佐藤副長官等に會ひ打合せ。

今日も頭痛あり。午後ソーファで休む。

午後五時から中部災害対策委員會。これは石原自治廳長官主宰。各省關係官出席。大會議である。締切り排水の小委員會、災害救済、住宅の各小委員會からの報告。

締切りが當面の重大問題□□で皆の関心はそれに集中の形。六時半頃閉會。

八時頃までいて旅宿にかへる。今夜は、駅前前の松岡に泊す。なか／＼喧

しい。
〔藤久〕
尾村局長今日帰京の途につく。

◎十月十二日(月) 晴

〔災害救助連絡小委員会〕
朝十時から災害救済の小委員会。それに先立ち麻薬取締官事ム所、警察等挨拶にゆく。保険課長の鈴木君にも會う。

小委員会は僕が主宰。もう災害救済の關係は問題が片づき幾つかにしばられた形である。

十一時過閉會。そのあと、応急仮設住宅の土地問題等につき縣、市両当局者と打合せ。仲々デリケートである。

午後一時半から鴛淵技官、黒田事ム官同行、自動車で現場視察に出かける。熱田神宮のわきを通り、港区、南区の現場を廻りそれから国道一号線を降って蟹江まで。午後四時半帰着。惨憺たる状況の中にも水次第に退きぼつ／＼生氣復活、しかし未だに水没の所少くなく今後大変だと思はれる。

午後五時半から中部災害対策委員会、六時半頃終了。その後、ビタミン剤の配分の事で八時頃まで居残り引上ぐ。今夜は中村の稲本旅館に移轉。ここはもと赤線だったところの轉業との事。

◎十月十三日(火) 晴

九時過から藤沢の醗酵工場を視察にゆく。途中、大木が数多く倒れているのに驚く。

十一時頃辞去。国立名古屋病院に、それから医ム出張所に、一時頃縣廳にゆく。午後一時五十分燕号で到着の内藤政ム次官を迎へる。

午後三時から中災委。そろ／＼締め切りの順序の問題で地区により不満が出て来ている状況が反映して感ぜられる。

午後四時半、本省に連絡。代りの者派遣の件、依頼。尚、今日、植林事ム官新たに到着。白崎事ム官は今夜離名。

白崎君帰京等のこともあり、夕方、厚生省組のみ六名、僕の宿舍で會食。

歓談九時近く散會。

◎十月十四日(水) 晴

〔災害救助連絡小委員会〕
午前十時から災害救助小委員会。十一時から中災協會議。

午後、ビタミン二三万錠の縣別配分につき検討。
〔災害救助連絡小委員会〕
午後四時前後、医ム出張所の鈴木君と共に名古屋城にゆき、新築落成間もない天守閣に登る。

〔梅村薫、小川朝吉〕
夕、内藤政ム次官と共に、縣の民生衛生両部長と共に會食。

◎十月十五日(木) 晴

疲労を覚え、且多少風邪気味。

災害救助法基準の引上げ、昨日来、厚生大藏両省間協議、昨夜高田社会局長から内容につき連絡あり。応急仮設住宅の単価引上等未決定につきその実現を図る等のため、午前十時半、三縣、市、民生部長を會同打合せ。午後三時半から小委員会開催。内定せる基準を話しこれに関する意見等を聞く。

一方、午後一時から二時近くまで内藤次官と共に海上自衛隊のヘリコプターにのり、浸水地帯視察。弥富地区、木曾崎地区に降下。浸水地域の広大なること、被害の甚大なること、見れば見る程認識を新たにす。天気よく風もなく快適。

午後四時近く、益谷副総理来名。四時半から中災協會議。災害救助法単価引上げの件、僕から小委員会の模様を話をし、縣民生部長等更に起つて改善の必要を力説、大いに空氣をもらあげた。その結末として、益谷副総理から官房長官宛電話をしてもらう。その内容は、一、応急仮設住宅基準の引上げ、二、毛布の配分基準の引上げ等二点であるが後者につき、厚生省の社会局ではきまつた分で結構であると云ひ、厚生省、

〔大島寛一〕
内閣審議室長、宮田参事官、僕との間に夜、電話の照覆頻り。結局、応急仮設住宅一本にしほることにし、明朝副総理の了承をとることになる。

夜、名鉄病院の山崎君を宿舍に誘ひ歓談。
右のやうな次第で十一時過に別る。

◎十月十六日(金) 少雨

基準の問題につき、午前、縣当局とも打合せ。

午後、益谷副総^(秀次)り宛内閣から電報。応急仮設住宅の建設に坪一万六千円を二万円にという案決定の旨。

益谷本部長はヘリコプターで朝から三時過まで三重縣下視察。

午後三時半から小委員会^(災害救助連絡小委員会)。尚、燕号で瀬戸施設課長到着。僕のあと引きつく。

午後四時半から中対本部の本會議。基準引上げの件報告。

災害關係懸案事項未解決のものを引継ぎ、一応片をつけて七時近く縣廳を辞す。

そのあと、麻薬取締官事務所^(東海北陸地区麻薬取締官事務所)の所長以下幹部と會食歓談。

十一時半近く名古屋発の急行能登号で出発離名。それより先十時過ぎには寝台車に入る。

◎十月十七日(土) 晴

朝、六時二十分東京着。松田君^(誠)迎へに来てくれた。その俣帰宅。午前中

臥床静養。かなり疲れている。

午後関忠義氏夫人^(照子)来訪。

楨浩修学旅行から昨日帰宅。

◎十月十八日(日) 雨

終日雨。

午後、広瀬薬事課長^(治郎)打合せの為、福島君石川縣行きの挨拶のため来訪。
夜浦野君来訪。

◎十月十九日(月) 小雨

夜来台風十八号、大した事なく過ぐ。

野沢清人氏死亡。朝、駿河台の宅に弔問。

十時、大臣以下に災害地から帰任の挨拶をする。^(渡辺良太)

午前、ペニシリンの輸入問題につき同協会の幹部と打合せ。^(日本ペニシリン協会)

一方、薬剤師国家試験審議会東大會議室にて開催。出席出来なかった。
終日大忙し。

◎十月二十日(火) 晴

正午から定例の局長會議。

午後二時から通商局倉八次長とペニシリン輸入問題につき打合せ。^(正)

◎十月二十一日(水) 雨

午前十時からペニシリン問題で同協会側と打合せ。^(日本ペニシリン協会)

午後二時東大医学部會議室で薬学教育協議会に出席。
夕、P.O.協会と懇談。^(義肢協会)

◎十月二十二日(木) 晴

今日やっと割合に閑散。

午後福田虎亀氏来訪。

午後六時から野沢清人氏宅にて御通夜。

◎十月二十三日(金) 晴

午前、国会図書館に佐藤達夫氏を訪ね、薬事審議会薬事制度調査特別部會の委員になってもらう様交渉したが、国会法の規定で委員になれないとの事、事実上加勢すると。法制局の方とも連絡の上井手成三氏にもつてゆく様調整を図る。

今日割合に暇なるも、室のすぐわきで建築のためのコンクリート杭打込みで喧そう甚し。

正午プリンスホテルで寺本熊本縣知事を囲み縣人有志の会。野田武夫氏幹事。

◎十月二十四日(土) 晴

刈米所長と薬事制度調査特別部會の今後の運営のこと打合せ。

午後一時から青山斎場(青山葬儀所)に於て故野沢清人氏の葬儀参列。

三時から整肢療護園テラクラウンドで薬ム局内対抗野球試合に出場。

◎十月二十五日(日) 晴

午前テニス。

多少腹痛気味。

◎十月二十六日(月) 晴

午前、星野氏(星野)と懇談。

午後六時半、園田直氏の誘ひで渡辺太賀次氏三人會食懇談。僕の将来のこと等話あり。次期参議院をすゝめらる。というのかういう考へ方のやうだ。衆議院は、一区では相當混みあつて居り、現メンバーは公認に反対するであらうし、實際問題として難かしい。知事には寺本氏(寺本)もう一期。参議院ならば次期に、反松野(松野)でゆけば確実というわけである。勿論態度をはつきりすべき時期でもないので一応聞き流した格好だったが、常識論としてはそうなるであらう。河野一郎との會見をすゝめられたがこの方ははつきり断つた。

尚、去る七月別府に於て小岱氏(小岱)と話し合つた結果に基いて、小岱氏の動いた結果が過大に傳へられ、特に小村氏との關係を意識して池田派(池田)との關係を話したことが、いかにも池田派に深入りしている如く傳はり、縣内一部に多少波紋をえがいたらしく、この点、両氏とも多少氣にしていたのでその経緯については釈明氷解。
八時半頃辞去。

◎十月二十七日(火) 晴

午前九時、全國薬事監視員の研修会。五階の講堂で。開會の挨拶。

九時半から有機燐製剤事故防止模範十縣の薬ム課長の會議。

十時過高野一夫氏を會館に訪ね、薬事制度の改正に関し懇談。

十一時渡辺太賀次氏来訪。昨日に引続き懇談。熊本の政界の見透し等話あり。

昼食を共にす。

午後大麻博之氏来訪。

午後六時三共本社に鈴木社長(鈴木)を訪ね、薬事制度改正特別委の委員人事のこと話し合う。

昨日血圧測定、一三八に一一〇。先般測定せるところによると第一回は一五六、第二回は一六三でどうもおかしいので再測定せるもの。上は普通であるが下は三回とも一一〇で高過ぎるとの事。

◎十月二十八日(水) 曇

朝渡辺氏(渡辺)、堀川縣議来訪。

十一時半、熊本縣の社会労働委員會のメンバー、平川氏ら数氏来訪。いはゆる水俣病問題。民生衛生兩部長も同行。昼食を共にす。

午後、課長會議。

午後五時半から丸ビル精養軒に於て東京都立衛生研究所(東京都立衛生研究所)の保健文化賞受賞の祝ひの會に招かる。

◎十月二十九日(金) 晴

午前荒尾市の鴻江氏等来訪。

正午から、竹内甲子二氏と共に、高橋勘次氏と會談。薬事法改正問題を中心として懇談。

夜、御殿山の佐成君来訪。

◎十月三十日(金) 曇

朝、雪印の瀬尾氏宅を訪ねたが留守。

高橋勘次氏、午前、高野一夫氏を鎌倉に訪ね薬事法改正問題では、自重を要望した由。竹内氏〔里子〕から電話あり。

午後、薬事法改正につき局内で打合せ。

正午から荒尾市の松野泉君来訪。

午後五時半から薬事監視員講習会の閉講式。謡の稽古。

◎十月三十一日(土) 晴

午後、上野に松方コレクションの西洋美術館をみにゆく。

一九五九(昭和三十四)年十一月

◎十一月一日(日) 晴

午前テニス。

◎十一月二日(月) 雨

午後一時半から薬事制度特別部會。午後五時迄。どうも仲々はつきりしない委員會である。

◎十一月三日(火) 晴

文化の日で休日。

薫及び祥三とともに多摩自然動物園を見にゆく。随分な人出であった。結構一日を楽しむだけの広さである。

◎十一月四日(水) 雨

正午から定例の課長會議。

夕、高野一夫氏に誘はれ、武田孝三郎氏と三人で歓談。

◎十一月五日(木) 晴

秋晴れの申分ない天気。

午前十時から総り官邸に於て、黄綬、藍綬褒章伝達式あり。薬務関係は竹田義蔵氏と藤井得三郎氏。

午餐の後、一同は宮中にゆき両陛下に拝謁。

午後二時から帝国ホテルに於て三共創立六十周年記念のパーティーに出席。

三時から、省内會議室で用具部會。

午後五時半から竹田義蔵氏の招待。帝国ホテルに於て、安田次官等と共に出席。

◎十一月六日(金) 曇

午前九時半、新潟縣の鈴木副知事〔武男〕を訪ね、医ム薬務両課合併反対申入れ。本件に関し、後、渡辺大臣〔良夫〕から同郷の知事宛、申入れを行う様大臣に依頼。高野氏〔志〕とも話す。

午後、山形の岡崎氏来訪。

夕、共同の山崎氏計画の口腔衛生協會〔日本口腔保健協会カ〕の設立問題に関し、大西氏〔栄蔵〕と打合せ。

謡の稽古。

◎十一月七日(土) 小雨

十一時半から麻薬取締官の講習會の閉講式。

午後、雪ヶ谷に東黎工業を訪ね、藤本氏〔捨助〕を訪ねたが留守。

◎十一月八日(日) 晴

テニスなし。

午後、池上技官来訪。ついで宮田君〔幸次〕来る。池上君より、局内の種々の人

事事情聞く。

◎十一月九日(月) 曇

午後一時半から薬事制度調査特別部會。販売部面における二号と薬剤師との関係の如く最も難かしい問題につき論議。五時過終了。

五時半、三年町の虎ノ門會館に於て、全国未亡人團體協議会各縣代表の會合。僕と吉見^(静江)前課長を招いて感謝の會開かる。記念品に人形をいたゞく。七時辞去。

◎十一月十日(火) 晴

朝、大藏病院に入院中の坂元正徳氏を見舞う。医ム関係の問題懇談。

正午から定例の局長會議。

午後葛西^(嘉資)さんを日赤に訪う。厚生共済會の人事のこと。

午後六時、武蔵関の病院に入院中の市村^(孝光)監視課長を見舞う。名簿の整理概ね終了。

◎十一月十一日(水) 晴

午前、心電図、眼底血圧、及び血圧測定。血圧は一四五と九六、前回とはかなりの違ひ。眼底異常なし。この間血圧が高かったのもどついうわけがよく分らぬ。

午前、藤沢氏^(友吉)、原安三郎氏等ベニシリン協會のメンバーと會見。ベニシリンの輸入反対との意向。しかし最終的には厚生省に一任ということらしい。

正午から定例の課長會議。

午後二時半から山内製薬の山之内^(山之内)小豆沢及び「空白」の二工場視察。竹下課長^(精紀)及び中野事務官同行。

◎十一月十二日(木) 晴

午前、国会。松野議長訪問。^(松野鶴平参議院議長)

おひる藤本捨助氏の部屋で河津君と出會ひ。

午後四時から上野精養軒で、東京理容化粧品工業組合の發會式に出席。午後五時から新宿御苑で後樂会。六時頃から出席。

◎十一月十三日(金) 晴

午前、藤沢の「空白」常務及び天野支店長來訪。吉田洋二君の就職決定の件。

十一時半藥業^(經)圣濟研究所へ。

午後二時半から三共の品川工場視察にゆく。竹下課長、中野事務官^(精紀)同行。午後四時半歸廳。

五時半衆議院社勞委メンバーを厚相星ヶ岡^{(渡辺良夫)星ヶ岡(衆議院)}に招待。陪席。七時過から八時まで謡の稽古。

◎十一月十四日(土) 晴

午前、吉田君^(洋三)に藤沢で採用の旨傳へ發奮を促す。橋本玉名市長、横島の小川^(作太)村長等來訪。

午後上野に正倉院展を見に行つたが、延々長蛇の列でやめ、三越に九州物産展を見てかへる。

◎十一月十五日(日) 晴

午前午後テニス。三共組と試合。暮れるに従ひ、もう寒くなる。

◎十一月十六日(月) 晴

朝林讓治氏宅訪問。先生は、一応元氣ではあったが、以前に比べると大分やせておられるし、衰へた感じを掩へない。

午後一時半参議院自民党政調社会部會で、薬事法改正の問題につきもとめに応じ、説明。薬剤師協會の谷川氏^(谷川)も出席していた。高野一夫氏の企圖か。

午後、さきに各團體から聴取した意見についての対策につき打合せ。

◎十一月十七日（火）晴

午前、保険薬価基準の収^{〔収載〕}才基準案につき薬務局の方針打合せ。

正午から定例の局長會議。

午後昨日に引き続き意見についての対策打合せ。

◎十一月十八日（水）晴

午前十時、田中正巳氏を訪う。

午前中、参議院社労委に出席。ベンゾール糊中毒問題。

◎十一月十九日（木）晴

午前、参議院社労委に出る予定なりしところ中止。

午後、各業界の意見検討。

午後五時半から厚相^{〔渡辺良夫〕}、参議院社労委メンバーを星ヶ岡^{〔星ヶ岡泰盛〕}に招待。陪席。

◎十一月二十日（金）晴

閑散の一日。

産経の記者から依頼の同紙月曜版の「一寸御願ひ」欄の記事数行を書いて渡す。

薬業時報依頼の新年号掲才^{〔掲載〕}の揮毫「恵風広披」を色紙にかく。

夕、謡の稽古。

◎十一月二十一日（土）曇

午後、植田君^{〔孝〕}を広尾病院に見舞う。顔色はよひが、病状変化なし。

午後、目黒の分室で厚生省の観世會で謡の會。僕は清経のわき。會食も仲々にぎやかで八時過漸く散會。

◎十一月二十二日（日）晴

快晴。祥三を伴ひ、高尾山にハイキング。九時半出発。十一時過高尾橋着。老杉の間、しっとりした登山道静寂にして気持よし。さきの颱風のため

か、風倒木多く、時に路に横^{〔マヤ〕}はる。

薬王院を見て、見晴台についたのが十二時半過。天晴れて風はなく、気は澄みて遠望美し。昼食をした、めて一時過出発。小佛峠をへて相模湖に降る。途中紅葉美し。

四時半頃、相模湖湖着^{〔マヤ〕}。電車で浅川、八王子へ。ついで、京王の東八王子にゆき京王電車で帰宅六時半。久しぶりに爽快なハイキングであった。

◎十一月二十三日（月）晴

午前、松本の佃君夫妻来訪。先般結婚した挨拶。

午後、物置修理。

尾崎人事課長の父君今朝逝去につき、夕八時御通夜にゆく。

◎十一月二十四日（火）晴

正午から定例の局長會議。

午後一時半から薬事制度調査特別部會。午後五時閉會。

六時から藤井得三郎氏藍綬褒賞受賞の祝ひに、藤井氏に招かる。

◎十一月二十五日（水）小雨

正午から定例の課長會議。

午後四時、日本アプジョン^{〔アップジョン〕}株式会社（住友と合併製薬会社）創立の記念パーティーに出席。

午後九時、八芳園で所謂薬業士幹部と會談。

◎十一月二十六日（木）晴

午前十時半、公衆衛生院で、米国の公衆衛生局長バーニュー博士を中心に衛生関係の局長、研究所長、東大医学部長等会同、懇談會。博士より研究の交換促進のために一種のフェロシップみたいなものを考へているとの話あり、それを中心に話し合ひ、正午散會。

午後四時、純正舎の社屋竣工のカクテルパーティーに出席。

夜八時頃から十時過まで、共同の山崎氏、予研の大西氏、医務局の
高木参事官等来訪。歯科衛生の法人設立のことにつき打合せ。

◎十一月二十七日（金）晴

午前十時半、虎ノ門共済会館に於て、赤穴君^{〔博〕}の結婚披露宴に出席。新婦は須田君の令嬢。媒酌は亀山孝一氏。仲々愉快な會であつた。

午後五時半から星ヶ岡茶寮で社会保険支払基金の久下理事長による、局長会議メンバーの招待、出席。

午後、安保改定反対デモ隊国会域内に乱入。相當の騒ぎだった様だ。

◎十一月二十八日（土）晴

午後早くかへり、「厚生」新年号の原稿を書いたり、「児童福祉十年の歩み」の本の表紙等の題字を書く。随分稽古をしても仲々うまくかけないものである。

◎十一月二十九日（日）晴

午前、業業時報の記者家庭訪問取材に来訪。

午後、物置の修理。

宗像君来訪。

◎十一月三十日（月）晴

本山の父、朝東一^{〔文平〕}にゆき受診。明日から検査のため入院との事。
午後一時から参議院自民党政調社会部會で薬事法問題に關聯し、二号業者の意見を聞かれるにつき陪席。

一九五九（昭和三十四）年十二月

◎十二月一日（火）晴

午前十時から東大医学部で薬剤師国家試験審議會開催。秋の試験の可否決定。

午後、序でに野上藥局長を訪ね、局内を視察。帰途、水野藥局を過り視察。本山の父、本日東一病院^{〔文平〕}に入院。

◎十二月二日（水）曇

午前十時から予算問題打合せ。

正午から定例の課長會議。

午後一時半から薬事制度調査特別部會。今日で現行法律の第一読会概ね終了。

帰途東一^{〔東京第一病院〕}に入院中の本山氏を訪ねる。

◎十二月三日（木）雨後晴

夜来強い雨。午前、雷をまじえて豪雨。一時停電で室内暗し。

「児童福祉十年の歩み」の字、写真縮刷を見たが先はよき出来栄え。

予算の件、次官と打合せ。

五時から日活ホテルで、日本レダリーのパーティー、出席。

◎十二月四日（金）晴

菅原通済氏、松原一彦氏、船橋市にある復光會^{〔總武病院〕}の病院を麻薬対策に關聯して視察にゆかれるにつき、恰度よき機会故に僕もゆくことにする。十時役所出發。途中、自働車混雑して車進まず。ついたのは、正午近くであつた。院内視察。僕だけ一時に出發。車にこりて、帰りは電車で。午後二時から第一ホテルにて、薬事日報主催の座談會（新年号記事のため）に出席。出席者は、高野、星野、伊藤、望月の四氏に僕。四時頃終了。五時から記者クラブとの懇親會。

◎十二月五日（土）晴

午前十時から自民党の医療問題特別委員会、いはゆる保利委員会^{〔茂〕}、本部で開催。保利委員長外議員、厚生省側、それに、医、歯、薬の三団体代表出席。医療金融公庫の構想につき説明、質疑。三団体の要望、意見。正午過終了。

正午から学士會館において、秋葉保広氏長男（田辺製薬）保憲氏と碧海美枝さんとの結婚披露宴。一寸おかれて出席。午後二時過終了。帰途、市川前麻薬課長の一周忌につき、宅に訪問。^{〔可賀男〕}いさ、か頭痛。帰宅して臥床。

◎十二月六日（日）晴

鎌倉の大麻邸^{〔雅男〕}にゆく。薫、祥三同道。それに先だち、大仏、長谷の観音に詣で。

午後一時半頃二人を先にやり、僕は、その近くの高野一夫氏宅訪問。三十分余雑談して大麻様宅にゆく。^{〔齊〕}寺本さんの奥さん^{〔富士枝〕}さんも落ち合う。午後四時頃辞去。六時過帰宅。

◎十二月七日（月）晴

麻薬取締につき地区事ム所の会議。

午後三時から自民党医療対策委員会で医療金融公庫案検討。大体まとまる。

◎十二月八日（火）晴

朝、小村一恵氏宅訪問。留守。

正午から定例の局長会議。

午後、薬事法改正につき特別部會にそなへて局の方針を確定するため局議。

◎十二月九日（水）晴

正午から定例の課長会議。

午後一時半から薬事制度調査特別部會。今日からいはゞ第二読會。午後五時終了。

◎十二月十日（木）晴

正午浅見氏を訪ねる。

午後三時工業クラブに於て、藍綬褒賞^{〔マ〕}をうけられた藤井氏外各種の表彰をうけた薬業関係者の御祝ひの會が日薬連^{〔日本製薬団体連合会〕}等主催で行はれ、出席。午後六時から渋谷東急、ゴールデンホールで篠原亀太郎氏^{〔亀之輔〕}の紫綬褒章受賞の祝賀會が、シノテスト研究所主催で行はる。出席。午後九時散會。

◎十二月十一日（金）晴

朝、中垣、黒金、龜山代議士等訪問。薬業士會會長〔空白〕氏来訪。薬剤師協會側との話し合ひの案につき相談あり。

午後、薬事法改正につき局議。

午後六時、石橋博士^{〔辰亮〕}の誘ひで東条會館で国際医学学会懇親會に一寸出席。謡の稽古。

◎十二月十二日（土）晴

午前十時から参議院自民党政策審議會で配置売薬の広瀬會長等の話を聞くにつき立ち会う。

正午近く役所にかへり、次々と来客にて忙し。

野村儀平氏来訪。

帰宅後、掃除手傳う。

夜、大阪薬品工業会報新年号の原稿を深更まで書く。

◎十二月十三日（日）晴

暖かくてよい天気である。

といや家の廻りの掃除。スキーの手入れ。疲れる。

◎十二月十四日(月) 晴

午前、薬事法改正特に二号業者の取扱ひの問題につき局議。

◎十二月十五日(火) 雨

正午から定例の局長会議。

十一時半、佐藤達夫氏に會ひ薬事法改正につき意見を聞く。

午後五時から帝国ホテルで日本ルセルKKの設立パーティーに出席。
六時、渡辺厚相(良夫)の招待に出席。

◎十二月十六日(水) 雨

正午から定例の課長会議。

午後一時半から第二會議室で薬事制度調査特別部會。薬局開設の許可制の内容。二号、三号の取扱につき薬剤師協會側と相当に突込んだ応酬。今日一とわたり論議を済ますことを一同希望し、午後十時過ぎまで薬剤師協會の谷岡氏(忠二)にはかなり辛く当ったやうな格好になった。二号との調整は両者の利害関係の調整としては常識的に理解出来るが、これを制度として法令化するについては問題が多く、果してうまくこれで納まるかどうか問題である。

◎十二月十七日(木) 曇

青少年の海外派遣で米国に出張中の児童局の植山技官(つる)午前十一時十五分羽田着の日航機で到着につき、迎へにゆく。元気でついた。隊員一同も元気である。

午後一時、自民党社会部會に出席。医療金融公庫の案確定。

午後六時から局内事務官課長の会合に出席。

◎十二月十八日(金) 晴

役所は大掃除。

朝、東一(東京第一病院)に寄り父を見舞ひ。それから玉沢にストック等を買ひ、市ヶ谷の基金(社会保険診療報酬支払基金)に笠井氏を訪ね、児童問題調査會事ム所を過り、国会に寄り、正午過登廳。

午後、薬事法改正についての地方廳の業務課長の意見につき検討。
田中代吉士(正巳)来訪、予算打合せ。

夕、謡の稽古。

義運来訪、明日離京、帰郷との事。

◎十二月十九日(土) 晴

朝、雪印(後三)の瀬尾氏を訪ねる。

立山一氏来訪。

午後早くかへる。

◎十二月二十日(日) 雨

冷雨終日。

朝ゆっくり休む。午前、風呂場掃除。

午後、薫と共に買物に出かける。

◎十二月二十一日(月) 晴

齒科治療室で歯石をとる。明日、もう一回。

午後五時半、厚生大臣(渡辺良夫)が政調社会部會のメンバーを招待。陪席。

竹下、中村君らが中心となり、五高会を赤坂あかね荘で開く。僕らから竹下君あたりまでの各省局課長クラスを対象としたが、時節柄欠席多く、約十名。僕は、右の会合終了後出席。大いに五高の寮歌をうたう。

◎十一月二十二日(火) 晴

昨日来、寒氣頓に加はる。

おひる、塩野の社長と會う。^(塩野孝太郎)午後三時三共に鈴木社長を訪ねる。
夕、マニラから休暇で帰国中の齋田君をかこんで會食。^(見)局長仲間で。

◎十一月二十三日(水) 晴

正午から定例の課長會議。

今日三十五年予算の大蔵省内示あり、午後七時過から予算閣議。終つて大臣十時頃登廳、局長會議で閣議の模様話あり。十一時近く散會。局にかへつて対策協議。夜来十二時半、ソファに横になりやすむ。

◎十一月二十四日(木) 晴

午前三時、熊崎會計課長、大蔵省の内示をうけて帰廳。その概要を聞く。思ったよりも温かな査定である。^(マ)この調子なら三十日位には終りそうである。

局にかへつて対策協議。復活要求の方針を定める。朝七時頃になる。

九時過朝食をとり、十時からプリンスホテルで政調社会部會。森本官房長から内示の概要を説明。田中部會長発言して、査定を不満として返上することにしたいと。そして二時から一同打ちそろつて大蔵省にゆくことになる。

正午熊本新聞社長等來訪。^{(熊本日日新聞(伊豆富人))}

午後にわたり、周東氏、^(英雄)大平氏、^(正芳)中垣氏、^(国男)龜山、^(孝)坂田、^(道太)灘尾等の各氏を歴訪。予算の件依頼。

午後、復活要求案まとめり、午後七時頃から各課長より會計課長に説明。^(熊崎正夫)

◎十二月二十五日(金) 晴

朝、松野鶴平氏を宅に訪う。

午前は薬ム局の局員もおくれて出席。予算時期となれば、夜と昼をとりちがへた恰好になる。十一時半大蔵省にゆき辻君に話す。^(歌)午後二時半、予算問題に関し省議。

四時、社会部會。赤坂プリンスホテルにて。

◎十二月二十六日(土) 晴

午前來客多し。

正午からプリンスホテルで社会部會、出席。

午後帰宅。第二次内示明朝の予想にて待機。

家には、中野の^(弘)本宅の子供來る。^(澤平、和美)クリスマス。

◎十二月二十七日(日) 晴

夜半三時頃役所から連絡あり登廳す。

五時過會計課長、大蔵省から内示をうけて來る。薬ム関係は殆んど内示なし。他局も寒々。

復活要求案を朝のうちとりまとめる。

正午、プリンスホテルで社会部會。

三時局長會議情報交換。

今日頭微痛あり。復活要求案の會計課長への説明終了後六時半退廳。榎浩、明朝發。藏王の岡崎先生宅に逗留約一週間スキーに出かける。^(金藏)

◎十二月二十八日(月) 晴

朝、林讓治氏宅訪問。

正午、社会部會。それに先立ち局内御用納め。

夕刻一旦帰宅。第二次復活要求の内示待機。午後十一時登廳、十二時頃内示を聞いたが薬ム関係殆んどなし。

◎十二月二十九日(火) 晴

朝二時半頃帰宅。十時登廳。

十一時、社会部會。

夜七時半、岩尾主計官に当局の復活要求事項説明。^(一)夜役所に泊る。

◎十二月三十日(水)晴

朝二時半頃、大蔵省奥村政^(又十郎)次官の部屋に行ってくれと各局長召集をくひ、出かける。次官、官房長等先着。これは、田中角栄を中心として急速にまとめてかゝった旋風とわかった。事ム折衝の進捗の上にしてくれと解散。一方渡辺厚相は佐藤蔵相と一喧嘩。ちよつとしたさわぎだった。朝六時帰宅休養。これに先立ち四時過大蔵省内示、衛生試験所、中小企業団体組織法等二三は入るも大したことなし。復活要求方針をきめる。もう二三の項目にしぼる。薬ム局はもう大体済んだ感じである。

正午過ぎ登壇、午後格別のことなし。

午後七時過會計課長、大蔵省の内示をうけてかへる。薬務局何もしない。次官折衝の準備をする。

局内、事実上、解散を済まして十二時頃から一休みしていたら、二時近く起され、次官室に集合。こゝで、予算の年内決定を諦め休戦に入つて来年に持越しと分る。妙な味である。

午前三時帰宅。寝につく。

◎十二月三十一日(木)曇

朝十時から林譲治氏、議員會館の田中氏等、黒川武雄氏等挨拶に廻り、一時帰宅。

夜十一時半の汽車で赤倉に向う為、六時近くから上野駅に並ぶ。川口君同行。恭子は明朝、蔵王に向けて行くといっていたが、こちらに同行することになり、十一時頃来る。

長い間待ただけあって三人とも席にかけられた。多少眠る。

車中勿論立っている人が少くないが、思った程の混雑ではなかった。三十日の夜がピークだったかも知れない

2. 一九六〇(昭和三十五年)年

一九六〇(昭和三十五年)年一月

◎一月一日(金)

朝八時頃田口駅着。延着なり。

バスで赤倉にゆき健保保養所に入る。保険局の柴君^(又太)先着。午前中やすみ、はやく昼食をとって四人でかや場スキー場及びその上のスキー場にゆく。雪質はまあ。元気がまだ十分廻復していないので、余り活発に滑れない。夕食後疲れが出てねむくてく仕様がなかったので早々に就寝。夕方山縣君来泊。今日昼の汽車で到着との事。

◎一月二日(土)晴

朝から快晴。五人で燕温泉の方へツアーに出かける。例年よりは雪が多くていゝ。

午後四時頃かへる。

◎一月三日(日)晴

昨日、今日と二日続き終日快晴とは珍らしい。日射しは強いのでかなりやける。今日は、観光ホテルの方のゲレンデにゆく。ホテルの裏の方のいわゆる裏山スキー場、仲々変化もあり面白いが難所にあつて相當のもの。

昼食に一旦帰った。午後と同じところに出かける。ホテルから主道路へのコースは快適である。午後四時頃かへる。五時食事をすまし六時過出発。バスで田口へ帰京の途につく。七時五十分頃田口発の列車にのり込む。乗れるは乗れたが勿論腰かける座席はない。一同立ち通しだが僕は幸ひに携帯用のこしかけを用ひてまだまし。

列車の進むに従ひ混雑は益々烈しく、長野以降では駅々にかんりの積み

残し客をおいて発たざるを得ない状況。車内は身動きならぬ状況。

◎一月四日(月) 晴

朝五時近く上野駅着。家についたのは六時頃。一風呂あびてすぐ寝につく。九時半家を出て登壇。

十時半、次官室^(安田)に局長會同。新春を祝ひ、十一時半、薬務局長室に同様局員會同。新春の杯をあげる。

午後、次官に予算の復活要求説明。

終日年賀の来客多し。

帰途三時頃先生を宅に訪う。十月以来病臥との事。気分は元気である。

夜年賀状の整理大変。

◎一月五日(火) 晴

春来るを思はせるやうな暖かさである。

朝福田房男氏庵訪問。

正午から定例の局長會議。

午前、国会議員等を廻る。

午後四時大蔵省に岩尾主計官^(一)を訪ね復活要求陳情。尚、夕、独創的医薬品の輸出開拓費予算で佐藤次長^(二)、佐々木^(三)、田代主計官^(四)に會う。

◎一月六日(水) 晴

朝代々木駅附近で森田克節君と出會い、同君が理事長をしている^(五)東部医師健保組合の會館を訪ね、新築早々の會館内部を視察。仲々おちついた感じのいい建物である。

正午プリンスホテルで政調社會部會。

午後二時、課長會議。

二時半、第二記者クラブの諸君と會見。

三時半、古河ホールで東部医薬品工業組合関係の新年交歓會。

五時上野精養軒で化粧品工業會^(六)の新年交歓會に出席。

予算対策で一旦役所にかへり、午後九時迄。

◎一月七日(木) 晴

朝代田一丁目^(七)の城戸宅に過る。

十一時半、ポラー銀座店落成式に出席。

大麻勇次氏、森未亡人に會う。

予算尚ペンディング。夕、八時過まで役所に居る。

◎一月八日(金) 晴

午前十時社會部會。

午後五時社會部會。

夜十時頃まで役所。予算待ち呆け。

夕、謡の稽古。

◎一月九日(土) 晴

朝十時社會部會。午後四時同様。

六時頃一旦帰宅。独創的医薬品の輸出開拓費、百万増して四百万円に。

夜十一時登壇。次官折衝を待つてソファーに横になっていたが、午前四

時頃延期の旨連絡あり、帰宅。

◎一月十日(日) 晴

朝四時頃帰宅。寝につき、正午プリンスホテルに社會部會。格別のことなし。

葛西さん宅を過り、三時過ぎ帰宅。夕、上村氏^(八)ら來訪。宅で待機。

夜十時頃登壇、役所に泊る。

◎一月十一日(月)

夕五時から上野精養軒に於て医療機械同業組合の表彰式、懇親會出席。七時近く辞去。

夜は予算の次官折衝待ちで役所に泊る。

◎一月十二日(火)

正午から定例の局長会議。

午後五時、製薬団体連合會理事會あとの新年懇親会出席。
〔日本製薬団体連合会〕

三時半、草葉隆円氏に招かれ出席。

早晩事務次官、大蔵省へ折衝の結果の内示あり、薬ム局は既に一兩日前判明していた独創的医薬品関係一〇万円の復活のみ。物足らない気持ち夥し。それを聞いて更に一寝入り。九時近くまでやすみ、十時からプリンスホテルで社会部會。

◎一月十三日(水) 晴

正午から定例の課長會議。

午後一時半頃から三時過まで広瀬重造氏はじめ、配置売薬の全国代表者約十名来訪。薬事法改正に関し陳情あり、種々懇談。こちらの趣意もよく話す機会を得て好都合であった。午後四時過から更にその関係者と懇談會。

午後七時近く予算閣議終つて大臣帰廳。局長メンバー一同會同。予算問題打ち上げ。

そのあと、武田長兵衛氏の招待。木村、高田正巳、春日氏一しよ。
〔軍次郎〕

◎一月十四日(木)

予算問題に関し、礼の意味で議員會館の代議士数氏を廻る。

今夜夜行で志賀高原丸池にスキーに出かける。同行者、池上、伊藤、松田、川口、児童局の渡辺さん、それに家内で行七名。
〔誠〕

夕方かへって準備をし、七時半頃上野駅にゆく。五時頃川口君をさきにやっておったが行列の随分後であり、そのあとが又大変で駅舎を一巡りの行列。

十一時三十二分の直江津行き。フォームにのつたときは既に満員状況。やつと窓からのり込む。車中超満員。やつと僕は携帯の腰かけで一夜を過す。

◎一月十五日(金) 曇

延着して朝七時半頃長野野駅到着。

縣の西沢薬ム課長等薬ム課の一行が迎へに来てくれた。二台の自働車にのつて、志賀高原に向う。途中湯田中で小けい。湯に入り、朝食をとる。途中雪少く着いてからさきが気がかり。十時半頃志賀高原丸池の丸竹旅館(Tei 志賀高原局二二番)に入る。スキー客多し。縣薬ム課の藤岡君、小林君等スキーのヴェテランも来てくれた。

早目に昼食をとり、午後一時頃丸池ゲレンデにゆく。雪は少く固いが、結構楽しめる。リフトを八往復、専らBコース、かなり疲れる。早めにきり上げ、四時半頃帰舎。夕食もおいしいし、湯も悪くない。昨夜の夜行がたたつて夜はねむくてく仕様がな。早めにやすむ。八畳と三畳に計七人。

◎一月十六日(土) 雪

夜来風強く雪はとばされて、条件は昨日より悪い。終日、ちら／＼と降り、高所は風強く寒気強い。

朝九時半宿舎を出て、発哺ゲレンデに向う。チャイヤントコース、リフトの中継所まで歩き、スキーで降りる。急阪壁の如く、且ブッシュが出ていて、僕らの技倆では仲々滑れるものではない。汗をかきながら降る。降りに汗かくのは、こ、だけである。

発哺のリフトは相當長距離で十二、三分間。然も登るにつれて風雪強く、寒気は鋭くなる。頂上から急き降つて、ぶな林ゲレンデに出る。こ、は広い。一行はリフトで降り降り、一しよにやっていたが、その間、池上氏らと発哺リフト二往復。
〔マ〕

昼食をとり、午後はチャイヤントゲレンデで数往復。四時過近く、一旦

帰舎。

その足で丸池ゲレンデにゆき、リフトで二往復。風で雪がとび、岩肌が出て危険。早々にきり上げて帰舎。

◎一月十七日(日) 雪

今日は熊の湯行きを予定していたが、夜半の降雪数十糎、雪深く、バスその他乗物は一切ストップ。然も今日も尚吹雪。

詮方なく、近くの丸池ゲレンデに出かけたが、雪深く、然も吹きつける雪は痛く寒く余り愉快でない。

昼近く、さあこれで帰ろうというとき、Bコース上部で渡辺^(八重)さんに、他の人が衝突。骨折はなさそうだが、相當の受傷の如く、渡辺さんをスノーボードをたのんで池上^(正人)氏とともにつきそって救護所にゆき、医師に

みてもらう。骨折はなく強度の打撲のやうである。池上氏と川口君に托して宿にかへす。午後一時過ぎ、午後は滑るのをやめて帰り支度をする。

雪のため、バスはのぼつて来^(五)ず、おいてあつた自働車^(四)は動かぬ。そこで一行十数名(縣^(三)もものを含めて)午後三時近くリュックを背負ひ、

吹雪の中を出発、降りにかゝる。平地同然のところを歩くのは骨が折れたがやがて緩慢な下りのバス道路を滑走。いゝ気持である。然し何しろ

人は多い。長くはあるし、疲れる。バスの発着所まで降つて、バスにのつたが、上り下りの整理がまづくバスの中で随分待たされ、湯田中の駅前

の旅館についたのは五時半頃だった。急いで湯に入り、縣薬ム課の諸君と會食。

七時駅にゆき、七時半過出発。湯田中から上野へ直通の列車で、且、縣の人達が席をとってくれたので楽に座れて洵に難有い極みだった。尤も、

思ったよりも混雑なく、スキー帰りには珍らしく、楽な旅だった。

◎一月十八日(月) 晴

朝四時過上野駅着。五時半頃帰宅。一風呂あびて、寝につき暫らくやすんで九時半登廳。九時半から開始の全国都道府縣衛生部長會議に出席。

十時から東京、大阪等、ブロックの中心縣及び関東地方の薬ム課長の會議を開き、薬事法改正についての意見を聴取。

一方、午後一時半から次官室で医療金融公庫の貸付対象等につき打合せ。薬局をどうするか等でかなり議論。

午後五時から局内でその対策打合せ。又明日の衛生部長會議の事前打合せ。

五時半から芝浦園における都道府縣衛生部長の懇親會に出席。

◎一月十九日(火) 曇

十一時半から十二時半まで薬ム局関係衛生部長會議。主として僕から薬事法改正問題等説明。

午後三時から一般質疑応答。五時近く閉會。十一時から自民党医療対策特別委員會。医療金融公庫のこと附議。竹下^(精紀)

企業課長を出席さす。中外の上野社長、午後三時近く来訪。製薬課長喜谷^(市郎右衛門)氏を中外に迎へた

きにつき割愛方依頼あり。原則的には了解。たゞ時期の問題は改めての話ということにする。

◎一月二十日(水) 晴

朝、企画廳の大堀^(弘)調整局長を訪ね貿易自由化問題等に関し打合せ。午前十一時半、日本薬剤師協會代表可児^(重二)、鈴木氏等、薬業士會代表伊藤^(義太郎)

氏ら打揃つて来訪。薬事法改正につき両者の調整について種々雑音があるが、これかくの如く、両團體の意見は不変、協力して法律改正に進みたいとの申出で。

一応承り、雑談の上〇時半散會。

そのあと定例の課長會議。

午後二時右の両團體代表の来訪に關聯し、第二記者クラブの諸君と會見。次官に当面の薬ム局内關聯の問題につき説明。

福岡の吉富製薬の稲葉君上京。池田、福田君と四人と六時から歓談。

◎一月二十一日(木) 晴

朝郷里の父に荷物を出す。

午後三時から医療金融公庫法案要綱につき省議。薬局の問題等を中心に論議。午後三時半散会。

◎一月二十二日(金) 晴

午前、法制局に眞田参事官を訪ね、医療金融公庫問題を打合せ。

正午過、渡辺大臣に貿易自由化問題等当面の問題説明。

大橋武夫氏を訪ね薬事法改正問題の経過、今後の問題を説明。薬事法改正の答申案検討。

夕、謡の稽古。

◎一月二十三日(土) 晴

パス懇話會會合に出席のため箱根にゆく。その途次茅ヶ崎の吉見さんの茅ヶ崎学園にゆくべく十二時半東京駅着。竹下君同行。

辻堂駅に下車。吉見さんが迎へに見えていた。学園は海に近く、松林に囲まれて美しい。約一時間御邪魔して辞去。

箱根塔沢の環翠楼にゆく。四時頃到着。パス懇話會は吉田會長以下約二十名出席。五時頃出席。

夜、星野氏と業界の事情につき話合ひ、十一時過寝につく。

◎一月二十四日(日) 晴

朝十一時頃出発。星野、竹下氏等と共に自働車で東京までドライブ。

眞鶴まで行き、引きかへして大磯で昼食。江ノ島のマリナランドを見て三時過東京帰着。

寒冷の気急に増して襟をそばだてる。

◎一月二十五日(月) 晴

寒気加はり、今冬最低零下五、六度。

午前十時中原、竹下両課長と共に予研に次長を訪ね、ポリオワクチン検定の今後のスケヂュールにつき懇談。

正午過、熊本の福永氏来訪。

午後、答申案検討。

夕、六時中山福藏氏来訪——こちらから會見を求めたるものである——薬事法改正問題に関し懇談。先般の薬剤師協会と薬業士會との妥結四点につきかなり違った考へ方をもっている様で、明日の薬事協議会は所詮、相互の云ひ別れといった格好にならう。七時過別る。

◎一月二十六日(火) 晴

正午から定例の局長會議。

午後二時から共済會館に於て薬事協議會。薬事法改正問題につき特別部會の経過報告。各委員から意見あり。四時過閉會。

夜松沢夫妻来訪。勝也君の病氣のことで相談あり。

◎一月二十七日(水) 晴

正午から定例の課長會議。

午後二時から薬業會館に於て貿易自由化対策懇談會。安田次官、鈴木、武田、塩野氏等出席。五時近く散会。

それから佐藤達夫氏を訪ね薬事法改正につき法律問題について意見を聞く。薬剤師と二号業者との協定を法律化することは困難の様。

大臣が政調社会部會のメンバーを招待。出席。

◎一月二十八日(木) 晴

午前十時から大蔵省會議室で関税率審議會。ポリオワクチン用猿の輸入税免除の件あるにつき出席。正午終了。

午後、明日の薬事審議會部會にあかける答申案要綱決定。

午後四時半から新小松に於て灘尾弘吉氏の（遺）環曆の祝ひの会、出席。六時、東大法学部（治郎）に広瀬君らと田中二郎教授を訪ね、薬事法改正中薬種商の地域制限の問題につき意見を問う。佐藤達夫氏と結論的には同じ意見である。

◎一月二十九日（金）晴

午後一時半から薬事制度調査特別部會。二号業者に関する地域制限の法律上不可能なる事に関し、議事円滑のため準備。薬剤師協會（忠二）の谷岡氏には午後〇時半招致、話す。

午後一時半、薬業會館で開催。答申の幹事案を基礎に審議。二号業者の項に至り、薬剤師協會側は地域制限の項を入れることを主張し、こちらや、星野氏（致忠）は法律上不可能のことを入れることを不適当とし、双方調整つかず、結局本日はこれで散会することとし、月曜日再開することとす。謡の稽古。

◎一月三十日（土）晴

十時半、薬事課長と共に高野一夫氏を訪ねる。昨日の問題の收拾策相談あり。意見一致せず、十一時半過別る。

そのあと、田中正巳氏を訪ね、薬事法改正問題（経）に関し、聖過を報告。その間大橋武夫氏より電話で右の事に関し、薬剤師協會側の主張を入れる様話あり。

午後、蔵王（金蔵）の岡崎氏来訪。西洋美術館に案内し、夕方、宅に案内。八時頃別れ、蔵王に向け帰る。

◎一月三十一日（日）晴

暖かくて初夏の如し。

薫とともに三越に買物にゆく。

一九六〇（昭和三十五）年二月

◎二月一日（月）晴

午後一時半から消防會館に於て薬事制度調査特別部會で、薬事制度改正につきての答申を最終的に審議。

薬剤師協會側と薬業士側との話合ひの第三点、新規の二号業の許可の地域制限を憲法違反の点で答申にとりあげない様にする事につき、午前、高野一夫氏より強く答申に入れることの申入れあり。又、同氏の依頼で（武徳）加藤参議院社労委員長よりも電話にて申入れあり（不在のとき）。

一方、こちらは、とりあげない方針を貫き面倒な場合は延長戦に行くことを決意し省内その他を地固めする。

一時半開會後この問題に入り、薬剤師協會側の谷岡氏と応酬。四時近く武田氏（孝三郎）の提案で休會、懇談に入り、武田氏と二人で別室で（鈴木誠太郎、可児重、谷岡忠二）薬剤師協會側三氏と會ひ、その項を答申からはづして委員長報告に入れ、その代り薬業士側にも強い態度で望むことが得策なる所以を説き終局的に了解をえる。次に薬業士側——二号業者側。この方は、近藤（伊平、公田、薬種商連合会）會長等を擁して一室に数氏待機話し合ったところ身分免許を固執していることが判明。種々説明。（治郎）広瀬、（黄臣）山下君等更に説いて薬剤師協會側が第三項取下げを条件として、営業許可を承認。名称も薬業士を必ずしも固執しないこと判明。

會議再開して、名称は薬種商と決定。右の事項も決定。そのあと、残りの事項を審議して九時頃散會。（尤）最も僕からも役所側を代表して挨拶し互に労をねぎらって別る。

我々は一旦役所に引き揚げ談暫らくにして別る。

◎二月二日（火）晴

十一時から政調社會部會、医療金融公庫関係で出席す。十二時半から定例の局長會議。

午後田中正巳氏等に會つて、昨日の部會の報告を行う。

◎二月三日（水）晴

朝中山マサ氏を訪ね薬事法改正問題につき^{〔経〕}聖緯を話し、薬業士関係のとりまとめ依頼。

正午から自民党医療対策特別委員会、医療金融公庫法案につき問題点を検討。薬局については、大蔵省案を排し、厚生省案の通り法律に規定する方針に決定。

午後、加藤^{〔武徳〕}参院社労委員長に薬事法問題の^{〔経〕}聖緯を説明。

大蔵省銀行局に大月氏を訪ね、^{〔高〕}公庫法案における薬局の取扱につき陳情。三時半埼玉縣に、田辺製薬東京工場及び研究所落成披露の會に出席。

◎二月四日（木）晴

今日はや、落ちついた一日。

答申案決定の事後措置今日で概ね終了。

正午から定例の課長會議。

◎二月五日（金）晴

午前、^{〔全国薬業士会連合会〕}薬業士會頭の中山氏から電話。先般の答申案了承。薬剤師協會

はまた、難題をむしかへすことないでせうねと。こちらからはこれで部内をまとめていたゞきたいと申入れ。

午後一時半から今後の薬ム行政の課題につき検討。

午後三時半から、近くの明治通信社の會議室を借りて薬事法案検討。

夕五時半から^{〔全国社会福祉協議会・前未亡人団体協議会〕}全社未協^{〔発予〕}の中村さんはじめ児童関係婦人の幹部の人達の會に招かれ、山水楼に出席。大山、^{〔正〕}太宰君も出席。

謡の稽古。

◎二月六日（土）晴

午後、薬事法改正案審議。

午前、寺本齋氏、桜井三郎氏来訪。

◎二月七日（日）晴

^{〔ママ〕}放外に暖かく、初春の感。

午前十一時頃からテニス。

夕方、郷里の家の裏の高田君、^{〔藏〕}税務講習會にて滞京中遊びに来る。

◎二月八日（月）晴

池袋に薬の濫売店三共薬品出現。地元小売組合は協力して三協薬店と称して対抗濫売店を昨日より開始、遂に天下の視聽を集めることになった。

午後、薬事審議會における刈米部^{〔達夫〕}會長報告案検討。

夕、高野一夫氏と。

◎二月九日（火）晴

陽春の如き暖かさ。

池袋濫売問題で往来繁し。午前、この問題に対する対策打合せ。夕刻^{〔精紀〕}竹下課長と共に現場を見にゆく。

正午から定例の局長會議。

夕、尾後貫氏及び薮田氏と會談。^{〔莊太郎〕}

◎二月十日（水）晴

多少頭痛気味。

午前、不良薬品についての行政処分につき検討。

都の山崎^{〔友久〕}薬ム部長と池袋濫売問題の対策打合せ。

午後四時、^{〔日本薬劑師會〕}日薬協、^{〔日本製薬団体連合会〕}日薬聯、^{〔日本医薬品卸業連合会〕}卸連の三團體の代表者を招致、池袋問題の解決についてのこちらの考へ方を話し協力方依頼。

都を通じの山崎部長に対し、関係者に対し、ビラ等の宣伝方法の是正、

不良薬品防止のため薬事監視、抜取の強化、五割以上もの値引の品について

の仕入れ先につき薬事法に基き報告を徴すること等を指示。池袋問題

の解決に向ふため、積極的措置をとることになった。急に解決ということにはならぬと思うが、時期としては開始既に四日目でチャン

スと思う。

◎二月十一日(木) 晴

午前十時から参議院社労委、池袋の薬乱売問題につき質疑あるにつき出席。十一時過から乱売問題につき高野議員他数氏より質問あり。至過及び今後の方針に関し答弁。問題が問題だけに、慎重を極めた答弁を行う。すんでから高野氏から今日の答弁は九十五点と。尚終始テレビカメラの対象になり、後は傍聴人で一杯。

午後一時頃終了。随分疲れた。

六時頃、次官室に田中代ギ士来會。(日本配置家庭薬協会)配置業者グループの動きにつき話あり。薬事制度改革答申案中地方薬事審議会の設置反対を代議士に説きつ、あり、明夕その会同を求めつ、あるにつき明日の薬事審議会前に薬剤師協会側と話をつけるか、一回延ばすかした方がよくはないかとの事。そこで富山の広瀬氏の居所をさがしたところ上野のホッケクラブ(法華俱樂部)に居ることを知り、連絡の上、広瀬薬事課長を伴ひ六時半頃のり込む。富山、奈良組十数名あり。食事直前だったが、話を先にと會談。僕の方から一体ぶちこわす気か、そうでないか、地方審議会反対一本やりならぶちこわしも同然、若し適当なところにおちつける積りなら、代議士をけしかけるにも程々にして落ちるところを考へてやるべしと、切口上に話をしかけたが、先方は、ぶちこわす積りはない、僕の方を信頼している、然し地方の薬剤師協会で地方審議会さへ出来ればあとはしめたもの、都市からしめ出すといってるものも居るし、一方、厚生省にも山間避地とする考へ方があるらしいので、然らばということになってこうして上京して来たのであると。

かくて、今日は奈良の前田代議士(正男)と一しよに各関係代ギ士を廻ったとの事。三里程歩きましたというわけ。

七時半頃まで話し、相互諒解して會食の後、八時過辞去。やれ／＼世話のやけるものではある。

◎二月十二日(金) 晴

池袋問題、十日における、厚生省の措置を転機として、両店、都の自粛勧告に応じ話し合ひの方向に入った。しかし、價格の問題になると急な解決は難かしいかも知れない。しかし、何れにしてもタイムリーな措置ではあった。

両三日前から新潟縣における薬務課廃止の問題が起り、薬剤師協会による運動、渡辺大臣よりの話等により喰ひ止めをはかる。今日も僕から新潟の副知事に電話をし、又、亘代議士を訪ね、事情を話し、上京中の北村知事を説いてもらう。

正午頃、政ム次官室に行つたところ、富山の広瀬氏、奈良の増田氏あり。広瀬氏は審議会で、答申案に反対ということになったと沈痛な面持。どうしてと問へば、皆がそういうとの事。そこで僕は、多数決でやるのなら、自分は、法律はやめる。とにかく全會一致の形にならないければ決定の意味がないので、審議会までに薬剤師協会側と話をつけてもらひたい。若し話がつかなければ決定をのばすも止むを得ないと、強硬に話を求めた。

大体昨夜僕らが行つてあれだけ話をしたのに、今日は寄りつきもせず、こういう算段とするのがおかしいがそれには、恐らく、前田代ギ士、田中代ギ士との連絡の上の事かも知れない。

増田氏にも前田代ギ士と急速に連絡の上高野氏と協議せられ度き旨いつたので出ていったが、二時近く、前田氏不在、且、富山奈良の他の連中、出拂つていてつかまらぬので話にならぬと電話の上、増田氏他二人来訪。僕もいさ、かかんにさわつたので、皆いないのは逃げていると考へ、それは故意かとなじつたところ、懸命に弁解していた。それから一体反対と定めたのはいつかと訊ねたところ、昨日僕らが行く前からだといふので、僕も怒つていさ、かどなった。大体その前からなら、僕が行つたとき何といった。それならそれと胸襟をひらいて話合ふべきではないか。若し又前後して種々の打合せで定つたのなら、本日、昨夜はわざ／＼御見えいたゞいたがその後話合ひの結果かく／＼になつたので悪

しからずというのが人としての礼儀ぢやないか。そも／＼昨夜行ったのは、個人の資格で行ったのではない、というわけだ。一方審議会は、一時から常任委員会、三時から総会だが二時半過、会場たる九段の都市會館に出かけようとしているとき、広瀬氏が會館からかへってきた。同氏をのせ、更に、厚生省裏にいたさっきの増田氏をむりにのせて会場に行った。は入り口に竹内氏(甲子)がいた。扉を排して入るや否や、増田氏他二名即ち、さきの三人は、逃げる様にして地下室には入ってしまつた。一方、広瀬氏は、自分は条件附で賛成することに決めたというわけ。僕はそれは広瀬個人の氣持を満足さしても、あとで富山、奈良の足並がそろわぬでは、尚のこと面倒になるから奈良側とも十分話し合つた上で決めてもらひたい、一回位のばしてもかまわぬと話したが、広瀬氏の氣持は固く、いや既定方針で行きます、會長はやめてもかまわぬ、富山の方はおさへられと思うというわけ。

そこでこの辺の事情、緒方會長(達夫)、刈米部會長等と論じ、とにかく、開會、三時十分過だつた。答申案朗読、刈米部會長の説明、各項目毎に質疑応答。地方審議會の項のみ残して議了し、一旦休けい。広瀬氏、薬剤師協会の谷岡氏等の會同を求め、相互の考へ再確認。尚、「薬事に関する重要事項を審議するため」という文句を削り両者今後話し合ひの余地を広くとることにして再開。広瀬氏から審議會の目的、性格、審議事項について慎重を期する様にと話あり。竹内氏及び僕が発言。全會一致を以て答申案を可決。時に六時半過。

役所にかへり、食事の後、昨年の薬事監視の結果、行政処分を行うためゆ聴聞會に呼ぶ出すを行うべき製薬メーカー及び化粧品メーカーの審査、選択につき、監視課の諸君と打合せ。原案につき種々疑義を生じ、僕の考へ方と合はざるため、結局十一時まで。

これは、池袋問題に関し、追ひ打ち的効果をねらつて発表を急ぎ、明日としたため、作業を急いだためものである。

◎二月十三日(土) 晴

竹内氏から昨夜電話があつたらしいが、帰りが十一時半頃になつたのでやめて、今朝かけてみたら、昨夕、審議會終了後が又一騒動だつたらしい。広瀬氏(重造)が富山奈良組が集つてるところにゆくにつき、竹内氏に同道を求めたので行つてみたところが、業者約二十人と、内藤政次官(正男)、田中、前田両代議士がいた。広瀬氏が、審議會の結果を報告したところ、一同、何故反対して来なかつたとなつたので、竹内氏が一席やり、そのうちに富山組と奈良組と喧嘩になり、田中氏は帰つてしまつた。後で尔後の收拾策は、内藤、前田、竹内氏等で協議した結果、審議會の審議事項を政令で定める様にすることにし、そのことを薬局局長に頼むことでけりになつたということらしい。

十時過、安田次官に報告。ついで前田氏から電話で昨夜の経過(経)について話しの上政令にて審議事項を書く様にしてくれと申入れあり。ついで田中代議士を訪ね、経過報告。同氏も、仲々奇々怪々、富山奈良の主導権争ひがからんでいるねと。そして、俺はどっちでもいゝんだ、まとまりさへすればそれでいゝんだとさっぱりした様子だつた。

一方、高野氏(一夫)には、昨夕及び今朝電話で報告し、善後措置遺憾なき様依頼。配置関係、特に富山、奈良間に多少とも溝が出来て、後味わるいが、これは又あとで寄りをもどすことにせざるを得ない。一応これであらゝなしは済んだと見るべし。

十一時に記者クラブにて右答申の件発表。午後一時には同様、薬事監視の結果の聴聞のこと発表。

二時半、池袋問題に關聯して毎日ニュースから局長室に自分を撮影に来た。三時過かへる。

宅にかへつて疲労甚だしく、あくびの出ること。五時頃熊本の川鍋君來訪。夕食を共にし、今夜離京。近く退職。福祉事業團入りをする。

疲労重なり風邪氣味。

恭子今夜から山田へ、スキーに出かける。

◎二月十四日(日) 晴
疲労重なり、頭痛。
終日臥床、休養。

◎二月十五日(月) 晴
風強く、寒さ加はる。

午前、田畑富士雄君来訪。
医ム局におけるバスの入札仲々面倒。

午後三共の河口専ム来訪。流通機構の問題につき懇談す。
新潟の君衛生部長から薬ム課廃止の件一応とりやめの旨電話連絡あり。
内藤政ム次官と配置問題打合せ。僕にまかせてくれという。

◎二月十六日(火) 晴

午前衆議院社労委。又池袋問題につき、瀧井義高氏から質疑。十二時頃終了。

正午から局長会議。薬事制度の問題等報告。
今日は疲労甚しきを覚える。

五時半から参議院社労委員を三共が招待につき陪席。そのあと、草葉氏(隆門)に招かる。

◎二月十七日(水) 曇

疲れがひどいので役所を休んで終日臥床休養。

◎二月十八日(木) 晴

午前十時過から参議院社労委。
池袋の乱売問題で厚相も出席。公取委の佐藤委員長等出席。高野氏外質疑。
疑。

おひる、渡辺太賀次氏、園田直氏と會食。
午後、血液銀行のことで参議院社労委側で竹中氏等から質疑。

三時過から参議院政審に於て先日の薬事法改正答申の説明をする。
何やかやで今日は終日国会。

◎二月十九日(金) 晴

午前、渡辺氏及び石原菊水町長来訪。
小笠官房副長官に薬事法改正の問題につき説明。法案提出の時期おくれるにつき、予め了解を求める。
草葉、巨両氏を訪ねる。

午後二時から貿易自由化懇談會の専門委員会を薬業会館に開催。

四時から日本橋クラブで日本医薬新報の主催で座談会。貿易自由化について、石館、篠田、竹内、武田(塩野の)、桜井の各氏。六時終了。
謡の稽古。「隅田川」終了。

◎二月二十日(土) 晴

多少風邪気味。

朝、青山墓地に大麻先生の墓に詣でる。今日正月命日である。

正午から薫と共に青松寺内酬醒(観照)に招かる。

先生にゆかりの深い者ばかりで、松村、山本、綾部、唐沢、野田の各氏、出羽海、時津風等々。松村綾部先生等の囲碁談義仲々におもしろおかしくはずんで、午後二時半散会。

◎二月二十一日(日) 晴

十時頃登廳。終日、役所で薬事法改正案審議の局議。
風強く、砂塵多し。

◎二月二十二日(月) 晴

今日も十時半頃から終日法案審議。

◎二月二十三日（火）晴

正午から定例の局長会議。

午前、午後とも薬事法案審議のため局議午後九時迄。

風邪、依然同様よくならぬ。

午後、美智子妃殿下御出産皇子誕生。

◎二月二十四日（水）晴

午前九時半、公衆衛生院に於て、血液銀行技術者講習會開催。出席挨拶。

十時半、製薬二十社の営業部長間で研究とりまとめ中であつた販売方法の規制対策、結論に達したので、木村、（富次郎）河口両氏来訪。報告あり。

正午から定例の課長会議。

午後薬事法案審議。

今日二日にわたり、全日本薬劑師協會の代ギ員會開催。薬事法改正も附議さる。夕六時渡辺厚相ととも一寸出席。

午前、（内藤隆）政務次官のところに前田代ギ士會同。地方薬事審議會に関する配置側の要望決議の内容につき話あり。

◎二月二十五日（木）晴

午前参議院社労委。薬の乱売問題につき高野議員等から質疑。出席。

官公労のデモ、自治、（全日本自治団体労働組合）労のデモで何となく騒々しい。衆議院予算分科會。

◎二月二十六日（金）晴

風邪仲々によくならないし、気分勝れないので少しやすんでみることにした。

終日臥床。

◎二月二十七日（土）晴

今日も終日臥床。

池袋の豊島公會堂で、医薬品協同組合関係者の全國會合。「医薬品を守るの會」と。（精紀）（企業課長）竹下課長出席。

◎二月二十八日（日）曇

半日臥床。仲々に全快に至らず。多少軽快か。

◎二月二十九日（月）晴

午前三共の川口氏等来訪。（河口静雄）取引方法の改善に関する、昨日の三者協議會の決定の旨報告あり。これで漸く配給秩序混乱問題も収拾の出発点に立つことが出来たわけである。

おひる、（武夫）大橋代ギ士秘書の西山氏来訪。

午後、薬事法案審議。

先日御誕生の新宮本日命名式あり。浩宮徳仁親王と。出典は中庸。

一九六〇（昭和三十五）年三月

◎三月一日（火）曇

正午から定例の局長会議。

午後一時半、日赤本社で献血者の表彰式行はれ出席。

午後薬事法案審議。

午後、日本医師會理事會に薬事法改正の答申を（広瀬治郎）薬事課長説明。

◎三月二日（水）晴

正午から定例の課長会議。

午後薬事法案審議。日本医師會の意見に関し、（太郎）武見會長と電話で交渉。

配置業者代表薬事法案に関し意見陳情。

◎三月三日(木) 晴

午前、参議院社労委、出席。
午後、薬事法案審議。

◎三月四日(金) 晴

先般の医薬品の過当競争自粛の三者協議会の決定につき、昨日、東京の小売組合が反対意思表示、新聞に出してしまった。この問題一応役所の方は静観の態勢をとるが、高野氏等を通じ、余り混乱に導かぬ様それなく、工作。

今日は久しぶりにゆつたりした一日。
夕、謡の稽古。

◎三月五日(土) 晴

十時から麻薬対策連絡協議会。
午後一時半頃、小畑清先生を宅に訪う。^(ちやうど) 恰度発病六ヶ月、はじめて自動車で外出のところ、発車間際のところであった。挨拶しているうちに、旭ガラス社長の森本氏も見え、一しよに上って、約一時間雑談。二時半頃辞去。

風邪気味にて、帰宅後臥床。

◎三月六日(日) 晴

春到来。既に陽もうららかである。
終日家にて、原稿書いたり、臥床したりして休養。

◎三月七日(月) 晴

午前、次官^(安田殿)と薬事法案問題につき打合せ。
午後、薬事法案及び薬価基準につき局内打合せ。

◎三月八日(火) 晴

朝、田中正巳氏を訪ね、薬事法案今後の取扱いについて打合せ。来週あたり、関係団体代表を田中^(社会部代表)部長のところにより、意向を質すこととする。そして一札とる。

午前、商工委員会で、薬の乱売問題に関し質疑あり。

小沢辰男君来訪。日赤をやめて立候補準備に専念する趣。

◎三月九日(水) 曇

正午から定例の課長会議。

午後五時から工業クラブ^(日本工業倶楽部)でスイス大使招待のパーティーに出席。

六時から銀座、弘龍^(幹尚)(中村君経営の)で五高甲三クラス會。會するもの一宮、後藤、佐々木、吉田、吉良、中村君及び八波未亡人。九時過散會。

◎三月十日(木) 晴

疲れが出て頭微痛。

午前十一時、萬有の船越氏案内で、メルク総本社副社長来訪。

午後二時、明日の「薬と法律」という題でのN・H・K放送録音。
山内の社長来訪。先日、訪欧から帰京。

◎三月十一日(金) 晴

風邪気味で休み。終日臥床。

◎三月十二日(土) 雨

今日も休み静養。

◎三月十三日(日) 晴

家の中にて休養。仲々風邪さらぬ。

◎三月十四日(月) 晴
今日は登壇。

おひる、唐木田氏の招きにより、昼食を共にす。

午後田中正巳氏を訪ねる。薬事法案のこと等。

五時からメルク副社長離日のパーティー。帝国ホテルにて、出席。

小沢辰夫(男)をかこみ、福田(尾)やに會同。高田正巳(正夫)、熊崎(重敏)、尾崎(直男)、三浦、それに僕。

◎三月十五日(火) 晴

正午から定例の局長會議。

午後、薬事法案関係の資料検討。

六時、帝国ホテルで小崎(邦弥)、熊日(熊本日新聞)社長就任の披露会あり、出席。

◎三月十六日(水) 晴

午前十一時(おくれて十二時近く)メーカー、卸、小売の代表を會同。配給秩序確立に関する今後の行き方打合せ。三者協議会を中心に行くことを再確認。

正午から(一時頃から)定例の課長會議。

午後薬事法案関係資料検討。

◎三月十七日(木) 晴

寒さぶりかへし。

午前、三共の河口氏来訪。

午後、薬事法案資料の準備打合せ。

午後四時頃、国会の方から明日医薬品乱売問題に関し、メーカー、卸、小売三者から参考人を呼び意見を聞くことに定まったので人選につき相談あり。これより先、小売は高野(大)氏の意見で名古屋の沖氏(野)に決定との事。

卸は松田氏(金助)ということで問題なかったが、メーカーの方は、日薬聯の理事会で一同大阪に行っており、連絡とれないまゝ。国会側の意向もくみ、

河口氏ということで話を進めたが、そのあと、大阪に出張中の鈴木会長と連絡とれ、木村忠二郎氏との意向につき、永山委員長(忠則)と直接打合せてもらった結果、そのやうに決定。

◎三月十八日(金) 晴

午前十時から衆議院社労委で、医薬品の配給秩序に関し、参考人の意見聴取。木村忠次郎氏(三)、松田氏(金助)、沖勘六氏出席。瀧井氏等から質問。午後一時過迄、余り荒れなかった。

午後薬事法案薬剤師法案検討。今日を以て、官房総務課の審議終了。その結果につき検討、夜に入る。

◎三月十九日(土) 晴

午前九時から薬事法改正案につき、次官室で省議。次官以下、官房長、医ム、公衆衛生、社会局長等出席。

初めに、薬剤師法案第一条の薬剤師の任務の規定が、広すぎるということとで話がぎやかなり随分時間くってしまった。その他くだらぬ議論で時間をくひ、こちらも多少しゃくにさわった。とにかく正午で一応打ち切り。午後、課長間で話をし、なるべく今日中に案を決定する様、且又、問題はあっても差当り、こちらにまかしてもらう様話して一応けり。

この間、東京小売同業組合長の高村氏を十時に招き、三者協議會中心に話をまとめてゆく様要請。

○時半から今般夫君(Entle Nihar)のベルギー轉勤に伴ひ、近く離日するナヂヤール夫人の送別會を、児童局長以下児童局メンバーと、銀座天いで。二時過散會。

午後薬事課長が中心になり、総ム課長と法案打合せ。午後六時頃からその結果に基き、局議。一応最終の案を確定。八時退壇。

◎三月二十日(日) 晴
風強く、埃多し。

今日矢来で誠誼會もあるも、疲れているので自宅で休養。
恭子、早朝蔵王のスキー行けず帰宅。

◎三月二十一日(月) 晴雨

午前十時半、福田虎亀氏来訪。

十一時、薬事法改正の広告取締の件(特殊疾病の広告)につき、新聞、
広告関係の人陳情あり。三共の河口市^(静雄)同行。午後一時半、谷岡氏^(忠三)来訪。
薬事法案の進め方につき懇談。

◎三月二十二日(火) 晴曇

正午から定例の局長会議。

午後薬事法案関係資料打合せ。

◎三月二十三日(水) 晴

午前十時から次官室で薬事法案につき省議。薬事修正その他につき種々
意見があったが、大体原案通り法制局に持ち込むことに決定。

正午から定例の課長会議。

午後大森先生、岡村氏^(二郎)来訪。

午後四時半、周東英雄氏を訪ね、薬事法改正問題につき打合せ。

◎三月二十四日(木) 曇

風強し。

午前十時半、法制局にゆき、薬事法案、薬剤師法案の審議開始。従前の
^(経)経過及び概要説明。

正午、加藤参院社労委員長を訪ね、法案の^(経)経過説明。

午後六時、野田武夫氏の招きで、大村氏と共に清水に出席。

◎三月二十五日(金) 晴

正午高野一夫氏を訪ねる。

夕、岡村一郎君及小全君を宅に招き夕食。十時近く散会。

◎三月二十六日(土) 雨

社会保険^(倶楽部)クラブへの原稿、山口栄吉氏に渡す。

川崎秀二氏来訪。

◎三月二十七日(日) 晴

午前、園木君、広田君^(潔)来訪。

午後、庭木の手入れ。

午後四時から赤坂プリンスホテルで樋川君^(和)の結婚披露宴に出席。
相手は、藤沢香枝さん、仲人は大沢雄一氏。

◎三月二十八日(月) 晴

午前十時から参議院予算委員会分科会。午後一時頃迄。低調極まる。
夕刻、小沢辰男君来訪。若尾君と共に。

三池の三井鉱山争議、第一、第二組合衝突。多数の傷害者出る。

◎三月二十九日(火) 晴

正午から定例の局長会議。

午後配置関係者陳情あり。

ついで本舗売薬の業者、内容公示の件につき反対陳情。
三池、第一組合員一名刺殺され、現地恐慌状態の様子。

◎三月三十日(水) 晴

正午から定例の課長会議。

午後二時から薬業會館に於て、貿易自由化懇談會医薬品専門部會。一応、
當面の省別リスト等決定。来月六日の懇談會にかけて決定の予定。

◎三月三十一日(木) 曇
物すごい風。夜は雨。

薬事法案、法制局に於て審議中であるが、^{〔治郎〕}広瀬薬事課長、今日は外廻りをさせるため、十一時頃から僕が代つて法制局に出席。医薬品の製造許可につき疑問生じ、議論盛んにして進捗せず。午後六時、青山の健保連の寮に移動。今日から^{〔秀吉〕}眞田参事官をはじめ、こちらの一行泊込みの審議態勢に入る。

僕は十時半過辞去。

一九六〇(昭和三十五)年四月

◎四月一日(金) 曇

正午、熊本縣の内村東京事ム所長。^{〔徹〕}熊本へ轉任につき、^{〔精紀〕}竹下君及^{〔井出進〕}井手新所長と四人で昼食。

午後自治廳に^{〔貞夫〕}藤井行政局長を訪ね、地方薬事審議會の問題につき交渉。夕刻青山の合宿所に寄る。

◎四月二日(土) 晴

午後、青山の合宿所へ。

◎四月三日(日) 曇後晴

今日から第十三回薬学会、東大に於て開催。午前九時、医学部講堂に於て日本薬剤師協會總會。^{〔渡辺良夫〕}大臣の代理で祝辞朗読。表彰式、稲葉氏の講演を聞き、昼食の後辞去。
午後薫と共に三越にゆく。

◎四月四日(月) 雨

寒さぶるかへし、冷雨しきり。

終日閑散。

午後六時、学士會館で薬学会懇親會、出席。

◎四月五日(火) 曇

午前、薬事法案につき打合せ。

正午から定例の局長會議。

午後一時から三時迄白木屋會議室で地方の薬ム課長懇談協議會、出席。
林讓治氏今朝九時二十二分食道ガンのため逝去。^{〔春一〕}甲賀君からの知らせで知ったのが正午頃。午後四時頃諏訪町の御宅に^{〔マツ〕}吊問にゆき、葬儀に関する助勢等につき手配。五時過辞去。

◎四月六日(水) 晴

再び暖かくなってきた。

午前、薬事法案についての法制局意見検討。

正午から定例の課長會議。

午後二時から松本楼に於て貿易自由化懇談會。四時まで。
六時、林讓治先生の御通夜に宅にゆく。

◎四月七日(木) 晴

午前、不良医薬品の製造業者に対する行政処分に関し打合せ。

午後薬事法改正案につき審議。

◎四月八日(金) 晴

午後二時から築地本願寺に於て故^{〔林讓治〕}林先生の葬儀行はれるにつき列席。夕、謡の稽古。
薫、昨日から風邪―^{〔感〕}流寒か―で臥床。

◎四月九日(土) 晴

午前、宗像君から桜井三郎氏今朝急逝の電話を受く。全く思ひもかけぬ

事である。按摩中に脳溢血の発作発生との事。一昨日、熊本の松本君を伴ひ役所に見えたとき顔色が悪いなあと考えたが、こういう結果になるとは思はなかった。いはゞ別れに見えた様なものだ。

午後二時頃衾町の御宅に吊問^(註)にゆく。話を聞くと一兩日前、あちこちに行っておられる様である。人の命のはかなさを沁々と感ぜさせられる。吊問の後、高輪の合宿所(今日から移轉)にゆき、夜十一時頃まで法案審議に立ち會う。

◎四月十日(日) 晴

正午過、高輪にゆき、午後十時迄。

◎四月十一日(月) 晴

薬事法改正案要綱を、来る十五日の社會保障審議會に附議する考へのものと、田中代^(正巳)ギ士外関係者にあたりをつけ、話をする。

午後薬事法改正案の問題点審議。

午後七時、桜井宅^(三郎)に御通夜にゆく。

薫今日より床拂ひ。

◎四月十二日(火) 晴

十一時米国大使館の平林氏来訪。麻薬中毒治療の新薬のこと。

正午から定例の局長會議。

午後、熊本の伴一正氏来訪。

午後、薬事法案審議の内容につき検討。

◎四月十三日(水) 曇

午前、高輪で法案審査。

正午から定例の課長會議。

午後、地方薬事審議會の問題につき薬事課長に、高野一夫氏に接触さす。^(広瀬治郎)
高野氏より、石原大臣等に連絡要望あり。大臣より僕の方に高野氏説得^(高野氏)

方話あり。

午後増田英夫氏来訪。

◎四月十四日(木) 晴

朝、法制局に高辻次長^(正巳)を訪ね薬事法案中、広告の件につき打合せ。

ついで自治廳に藤井行政局長を訪ね、地方薬事審議會ノ件打合せ。^(貞夫)

児童局の立山君^(春男)心筋梗塞で、東一^(国立東京第一病院)入院。重篤の様子につきおひるごろ見舞う。午後や、持直した様子。

午後一時から青山斎場で桜井^(三郎)さんの葬儀参列。

二時半、高野一夫氏を訪ね地方薬事審議會の件、任意設置ということで妥協することに話をする。概ね了解をうる。そのあと、加藤委員^(武徳)長を訪ねる。帰廳後明日の社會保障制度審議會対策の打合せ。

午後六時から八幡製鉄の山谷寮で、昭二五年採用組の會合に出席。恰度^(ちやど)採用してから十年。

◎四月十五日(金) 晴

今日午後社會保障制度審議會開催。薬事法改正につき諮問。午後三時半頃から五時頃まで審議。二三の希望条件を附し可決決定。

午後六時、東一^(国立東京第一病院)に立山君^(春男)の見舞に立ち寄る。昨日入院時は九五%は駄目との判断だったらしいが今日はもう大丈夫ということになった様である。

午前十時亀山孝一氏^(佐登)母堂、日赤記念病院を出棺につき、行つて送る。

◎四月十六日(土) 晴

午後から夜へ、高輪で法律審議。

十二時近く帰宅。

◎四月十七日(日) 晴

午後から夜へ、高輪で法律審議。もうそろそろ大詰め。薬事法を三分。

薬剤師法薬事法の外、医療用具をきりはなし医療用具取締法にする考へ方をまとめる。法制局と打合せの上明日きめることにする。正に敵前轉回の如し。

夕六時、亀山孝一氏宅に御通夜にゆく。

◎四月十八日(月) 晴

午後一時、亀山宅に告別式にゆく。

午後、高輪にゆき、法律審議。夜十二時近までいて帰宅。薬事法案につき最初から条文整理に入る。

他方、要綱の作成にかゝる。

医療用具を別の法律にすることについてはとりやめの方で進める。

夕、後楽会もあるも欠席。

◎四月十九日(火) 晴

正午から定例の局長会議。

午後から夜十一時半頃まで高輪で法律審議。

◎四月二十日(水) 晴雨

午後から夜にかけ高輪。

田中自民党社会部長の意向で、今日夕午後日薬連、日薬協、(日本製薬団体連合会)薬業士団体、(日本製薬団体連合会)配置売薬の四団体の代表を会同。法案提出につき意向を聴取することとなる。

午後六時、星ヶ岡茶寮に會同。約三十分間、僕から法案の内容を説明。

田中部長から話あり。いふなれば、これで結構だから是非やってくれというのであればいいが、法律につきしのこのいうのであるなら提案は難かしい。一致して推進するや否やというわけである。

日薬連側から広告と内容公示につき発言あり。但し、これは実施上の問題と。よって然らば異議無しだということになって、食事。

八時頃その場を辞去、高輪にゆく。

◎四月二十一日(木) 晴

午後一時、自民党政調社会部會に法案要綱附議。異議なく決定。夕方から高輪にゆく。昨日から附則審議。

◎四月二十二日(金) 晴

午前九時半安田次官、米国大使館にマッカーサー大使を訪ね、合成麻薬の特許供与の傳達をうく。

十時から政策審議會、急に本日これにかゝる事になり出席。はじめ、原子力関係の法案で議論が長びき、十二時辺になつて薬事法改正案附議。

高野議員より説明。山中議員等より質疑あり、異議なく決定。

ついで十二時半から総ム會。高野議員から説明。加藤精三、南好雄代ギ士等より、許可制についての異論的発言あり難行。結局、本日決定に至らず。火曜日に持ち越しとなる。午後二時過散會。つゞいて参議院自民

党政審に於て麻薬取締状況説明。四時近くまで昼食の機会がなく、随分疲れた。

高輪では昨夜徹宵。全文の審議を終り、今朝七時で散會引上げる。

夕方に至り、農林省農業^(経)局で農協への薬事法の適用につき、異論が出、法人たる薬種商等につき修正の必要を生じ案を検討苦吟。十時頃帰宅。

◎四月二十三日(土) 晴

朝、眞田参事官を訪ね、農協問題等につき相談。考へ方をきめ、山下君を差し向ける。

農林省、又覚書とか何とか云ひ出し手こずる。

午後二時過第二クラブの記者諸君の會見。法案の内容の概略を説明。

午後、局内幹部會同資料その他の準備につき打合せ。午後八時退廳。

午後は御苑で厚生觀世會の謡の會あり。天気はよく、役所にいるのは野暮ったい事夥しいが詮方なし。

◎四月二十四日(日) 晴

午前久しぶりにテニスにゆく。

午後三時役所にゆき、提案説明、逐条説明を検討、調整。夜十時に退廳。

◎四月二十五日(月) 晴

朝、安田次官に両法案の要綱問題点説明。本日の次官會議に附議決定。

心配した農林省の決才も山下君がゆき午前中に完了。閣議請議の手續完了。午後三時、新聞発表。

午後、提案説明再調整。

午後五時故林先生(謙出)の三七日につき御宅に訪ねる。七時辞去。久しぶりに早く帰宅。

◎四月二十六日(火) 晴

朝十時過加藤精三氏に面會。薬事法案のこと話し合う。今日の総ム會対策。

○時半から総ム會に薬事法案、薬剤師法案附議。加藤氏から批判的發言あったが高野(二夫)、亀山(孝二)両氏から意見あり、原案通り決定。一時過。

一方、閣議に於ても本日両法案決定。國會上程用の法案印刷、両三日前から準備していたが、今日完了。午後、内閣から參議院へ上程の手續完了。

午後法制局に眞田參事官等を訪ね右聖過報告(魁)、礼をのべる。部長次長不在。

夕方、明日からの審議にそなへ答弁の準備をする。

◎四月二十七日(水) 晴

午前十時から參議院社勞委開會の予定であったが、本會議との關係で午後○時半第三委員室で開會。渡辺厚相より両法案の提案説明後、僕から一時間余にわたって両法案につき逐條説明。委員一同そのヴォリュームの大きさに改めて見直した様子。

そのあと質疑。後方には薬剤師關係者多数傍聴。

高野(二夫)、坂本(昭)、藤田各委員から發言質疑。高野氏から公衆浴場の巨離制限を援用しての憲法論議展開。午後四時閉會。役所で今日の結果宿題の資料や答弁の準備打合せ。

◎四月二十八日(木) 晴

午前十時半から昨日に引き続き參議院社勞委開會。昨日宿題となった点につき答弁。資料の説明ののち質疑に入り、藤田(廉太郎)、高野(二夫)、鹿島(後雄)、竹中(恒夫)の各委員質疑。午後二時近くまでぶつづけ、終って、役所で今日の資料要求、質疑等検討。打合せとなる。

今日でやっと一段落。何日ぶりかでゆつくりした氣持になる。夕方もしぶりに七時前に帰宅。

◎四月二十九日(金) 晴

天長節で休日。

午前庭木の手入れ。

午後、恭子、祥三とともに、賀川豊彦氏の告別式に出席のため、十一時過、青山学園(院)にゆく。沢山の會葬者であった。

青山学園の内外を散歩して夕方帰宅。

◎四月三十日(土) 雨

午後、上野松坂屋(トルコ古代美術展)。古代トルコ美術展を見にゆく。

一九六〇(昭和三十五) 年五月

◎五月一日(日) 晴

五月晴れ。

本山(本山文平)の父の誕生祝ひに親類一同會同。総勢二十数人に及び仲々にぎやか。

◎五月二日(月) 晴

おひる、山下君(真臣)を伴ひ、三井物産の林田君と三人で昼食。帰途、物産に立ち寄る。

午後、先般の聴聞の結果に基く製造業者に対する行政処分検討。調査不十分で決定困難。

◎五月三日(火) 晴

上天気。終日家にあり、庭木の手入れ等。

◎五月四日(水) 晴

朝登廳の途中、幡谷(幡ヶ谷)で、車が後から追突された。怪我なし。

午前、日薬協(日本薬剤師協会)の谷岡氏(忠二)来訪。薬事法案をめぐる諸状況につき懇談。特に

対医師會について。

午後、河口氏(静雄)来訪。

国会審議の準備打合せ。

◎五月五日(木) 晴

子供の日で休日。九時過家を出て祥三を伴ひ、高尾山にハイキング。小佛城趾から相模湖に出で午後六時過帰着。天気よく、かなり暑かった。

新緑がとても美しい。

◎五月六日(金) 曇

朝九時半大橋武夫氏を宅に訪ね、薬事法案審議につき打合せ。

午後同問題につき谷口弥三郎氏と懇談。

午前後製薬業者の行政処分打合せ。

夕、謡の稽古。

◎五月七日(土) 雨

午前、薬事法案審議準備打合せ。

午後、行政処分につき打合せ。案、再検討させることにする。

◎五月八日(日) 晴

午前テニス。

午後在宅。村上逸夫君来訪。

◎五月九日(月) 晴

午前十時から参議院社労委。はじめに引揚援ゴ局関係あり。十一時頃から薬事法関係。坂本(昭)、谷口(昭)、藤田(兼太郎)の各氏より質疑あり。○時半から一時

半まで休み。午後は、坂本氏、藤田氏等より質疑あり。三時半過散会。

帰廳後資料等につき打合せ。

◎五月十日(火) 雨

午前十時から参議院社労委開會。

午後三時半迄午前午後にわたり薬事二法案審議。竹中(恒夫)、高野(一夫)、坂本(昭)、谷口等(昭三郎)の各議員質疑。

高野、藤田両氏から質問の特例販売業者の既許可品目の一部取消しにつ

き見解分れ、宿題にして明後日改めて答弁の事になり、また、卸小売の区別の問題に關聯して店舗販売の解釈につき見解分れこれも同様の事にする。

◎五月十一日(水) 晴

一両日来冷氣加はる。

正午から定例の課長會議。

午後国会資料、答弁方針打合せ。

◎五月十二日(木) 晴

午前十時から参議院社労委。

渡辺大臣(良夫)も出席。

薬事二法案審議。坂本^{〔昭〕}、高野^{〔二夫〕}、山本^{〔杉〕}、竹中等の各委員から質疑。

卸小売問題及びこれに関連しての店舗販売の定義、意味、特例販売の品目整理等につき、先日の懸案を一応けりつける。午後一時半近く散会。大体今日で山を越した感じである。

◎五月十三日(金) 晴

^{〔春日部薬用植物栽培試験場〕}

衛生試験所春日部分場唯けしの花ざかりにつき、現地で麻薬対策各省連絡会議を行うことにし、十一時到着の事にしてゆく。尚、菅原通済氏、松原一彦氏も参加。東京の街を出るまでに随分時間がか、った。九時二十分家を出発、到着は十一時十分頃。

けしの花の外、しゃくやく等、今花ざかりで美しい。

場長から説明を聞き十二時過から食事をし乍ら話合ひ。僕は、午後一時、菅原氏と共にさきに辞去。

^{〔宋四郎〕}

春日部の町に前場長の若林氏住居との事につき、帰途立ち寄ったが生憎不在だった。

午後二時半頃帰着。疲れた。

夕、謡の稽古。

◎五月十四日(土) 雨

午前、国会答弁対策。

午後製薬業者等の行政処分打合せ。五時半頃まで。

監視課の植田事^{〔孝〕}ム官昨年八月交通事故で傷害、広尾病院で治療中のところ、遂に、今夕七時頃逝去の旨知らせあり。全く気の毒なことであった。

◎五月十五日(日) 晴

十一時、広尾病院にゆき霊安室にて植田君^{〔孝〕}に焼香。午後、葬儀その他の段取り打合せをとげ四時過辞去。尚、遺体は、三時に病院を出棺、自宅に安置。明日火葬に附する予定。

葬儀は十九日に執行の予定。

◎五月十六日(月) 晴

午後一時半、故植田君宅^{〔孝〕}にゆく。二時出棺の予定なりところ、監察医ム院の方の手續が済まず、死亡届が完了せず、延引の見込みなりし為、二時過辞去。

午後、国会答弁資料等整備。

◎五月十七日(火) 晴

午前十一時頃から参議院社労委。

薬事二法案附議、正午から二時過まで休けい。午後も続行して五時過全會一致で可決。高野議員提案の附帯決議も同様決定。

今日の質疑は、坂元^{〔二夫〕}、藤田^{〔昭〕}、竹中^{〔恒夫〕}、高野の諸氏。こちら側厚生大臣、僕

の外、医ム局次長、保険局館林医療課長出席。尚、池田通産大臣も高野

議員の質問に答へるため、一寸出席。

^{〔Macleay Hon. Sir John KONG M〕}

午後三時半頃、オーストラリア上院議長^{〔長〕}十数分傍聴。国会終了後、政府委員室及び薬ム局長室でさ、やか乍ら乾杯。

今日、全国衛生材料協会の総會。

夕六時半、松本楼の同會に出席。

◎五月十八日(水) 晴

正午から定例の課長會議。

午前、加藤委員長や高野氏のところに御礼しに。

午後七時本郷の西教寺で植田君^{〔孝〕}の御通夜、局員と共に出席。

◎五月十九日(木) 雨

参議院社労委で医療金融公庫の審議があるが、植田君^{〔孝〕}の葬儀あるにつき竹下課長^{〔精紀〕}に出てもらう。

十時半、平井副議長を訪ね、製薬會社の行政処分につき懇談。御不満也。十二時半、西教寺にゆく。午後一時から葬儀。吊辞^{〔吊〕}。僕がのべたのち、

山崎部長、園部君^{〔明〕}。一時五十分葬儀終了。僕から葬儀委員長としてあい

さつ。引き続き告別式。おひる頃から相当のはげしい雨で告別式の参列者には気の毒であったがい、葬儀であった。

二時頃辞去。四時頃、羽沢ガーデンに第二記者クラブの十周年記念の會に出席。

五時半、国際観光ホテルに、日葉連のパーティーに出席。七時半頃終了。

◎五月二十日（金）曇

衆議院では昨夜警官導入。自民党のみで會期延長五十日議定。引き続き、安保も可決。これはいさゝか行き過ぎだ。會期延長のみに止めおくべきだった。これから政局多事になるであらう。

國會は当分なし。外はデモ隊で喧し。久しぶりにのんびりとかへる。

◎五月二十一日（土）晴

國會の事態に対し、朝日新聞は異例の形で「岸内閣の退陣と総選挙を要求す」という社説をか、げている。これがあるいは歴史的社説となるかもしれない。

目黒の予防衛生研究所で廳舎新築落成記念のパーティー。十二時過出席。午後久しぶりに早くかへる。

◎五月二十二日（日）晴

しばらく涼し過ぎたが今日は夏らしい天気。

午前、テニス。

午後、庭に芝を植える。

◎五月二十三日（月）晴

午前、葉業會館に局長會ギ。社会保障長期計画につき打合せ。僕は慎重論。具体的政策論までやるのでなくて長期計画のベースになるものをしっかりと固めることに重点をおくべきだという考へである。

国会再開見通し立たず、結局この休開かれないうで来月十九日まで行って

しまうのではないだろうかという気がする。そうすると葉事二法案は参議院に於てその俣継続審議ということになるのがおち。

◎五月二十四日（火）晴

朝練馬区に先輩中沢嘉作氏を訪ねる。健康を理由に玉中会会長辞去の意思表示をなし来られたる事に関して訪ねたのであるが生憎留守だった。

午前、^{（穀子郎）}星野氏を訪ねる。

正午から定例の局長會議。

◎五月二十五日（水）晴

午前十時半中野の警察大学で、講習中の麻薬取締官に短銃射撃練習につき行って、僕も六発試みる。まあ／＼の当り。

正午登廳。定例の課長會議。メーカーの行政処分につき再検討。

五時半、根岸氏らと在京玉中会のことにつき會う。

児玉九一氏一昨日逝去。七時過、御通夜にゆく。

◎五月二十六日（木）晴

午前中、第一製薬の堀及び柳島両工場を視察。^{（船脱）}竹下企業課長及び^{（正男）}中野事ム官同行。

おひる、^{（淳三）}篠田社長と東京會館で會食。

午後二時半、故児玉九一氏の告別式にゆき、三時の出棺を送って辞去。

ついで城戸元亮氏宅訪問。その俣帰宅。

安保反対のデモで國會周辺大変なさわぎ。

◎五月二十七日（金）雨

午前、メーカーの行政処分の件打合せ。

午後五時、日本病院協會創立十周年記念の會にゆく。

◎五月二十八日(土) 晴

午後、ライフ社主催百万人の世界名画展を高島屋に見にゆく。

ついで、日本橋三越に日米修好百年記念展を見る。四時半帰宅。

橋本龍伍氏の母堂^(京都)逝去。御通夜にゆく。

◎五月二十九日(日) 晴

朝、亀山孝一氏から電話があり、今朝松尾仁氏東二病院で逝去のことを知る。つい両三日^(精紀)前、竹下、喜谷^(市郎右衛門)両課長を見舞にやり、又昨夜奥様から快調の旨の手紙が来ていたばかりであつたから。

早速、竹下、広瀬^(治郎)両君に電話をし、諸事手配に着手。とりあへず、東二に行つてみようと思つているところに坂元氏^(正徳)来訪。ついで郷里の学生来訪。とうとう東二についたのは正午頃であつた。

霊安室に安置してある骸に線香をたむけた。竹下、広瀬君のみがきていた。風は強く、前面のグラウンドの砂をまきあげて、ものすごい。

事ム室とはなれた霊安室では電話その他の連絡不便。日曜のこととて、局員の呼び出しも意の如くならぬ。

そのうちに平瀬君^(嘉晴)や中野君、松田君^(誠)が見えてどうやら体制がと、のつてきた。

一方僕は、午後二時からの橋本龍伍氏母堂の告別式に青山斎場にゆき、それが済んで東二にひきかへし、諸事打合せ。中野君を一応こちらの中心とし、親戚側と打合せ。葬儀等の段取をきめる。五時頃、厚生省に引きあげ、通知状の発送準備にかゝる。

一方僕は、福岡から上京の赤星一郎君の話で、佐々先生^(虎雄)(中野療養所^(所長))と會うため七時に学士會館にゆく。食事後、先生の話を書く。究局^(局)するところ、坂元氏の身上を非常に心配しておられる様であつた。これは多少意外であつたが、或は火のないところに煙は立たぬのかも知れぬ。九時別る。

◎五月三十日(月) 晴

松尾仁氏葬儀の段取り等更に打合せ。

午後、國會方面、多少廻る。

渡辺太賀次氏来訪。野田武夫氏立候補の件で上京されたものらしい。

午後六時から松尾仁氏宅で御通夜。亀山、灘尾^(季二)氏も見え、話に花がさく。八時辞去。

◎五月三十一日(火) 晴

弔辞昨夜もつてかへつてかき直し、今朝仕上げる。

十二時松尾宅にゆく。十二時半から葬儀。大臣の吊辞、僕が代読。^(渡辺武夫)

一時から二時まで告別式。盛大に滞りなく終る。

四時から局長会ぎ。

一九六〇(昭和三十五) 年六月

◎六月一日(水) 晴

正午から定例の課長會議。

午後、メーカーの行政処分審議。

◎六月二日(木) 晴

割合閑散な終日。

おひる、有斐学舎の玉高卒業の高島君^(君)ら来訪を求め在京玉中会の事依頼。麻薬取締官講習會本日閉講。

◎六月三日(金) 晴

朝、法制局に立ち寄り高辻次長^(正巳)以下を訪ねる。

次官のところでポリオワクチンの輸入問題打合せ。

明日の一斎^(斎)ストを扣へ、今夕あたりから街頭さわがしい。

謡の稽古。

◎六月四日(土) 晴

今日総評等の統一行動で交通機関特に国鉄朝のうちスト、道路は自働車陸続として相当の時間がかゝった。厚生省等も入口のピケをやつたらしいが概して平穩。

午後東一に、竹下君と共に立山君を見舞う。

◎六月五日(日) 曇

終日家にあり。

薬業時報から依頼の松尾仁氏追悼の記事を書く。

◎六月六日(月) 晴

さきになくなられた林讓治氏の長男迪氏が一昨夜脳梗塞でなくなられた旨、昨日、倉永君から聞き、今朝十時弔問に立ち寄る。四十九日やつとすぎたばかりのところにこの不幸で何とも云ひ様のない暗たんたる気持である。胸廓整形手術の予後との事である。

登廳後手伝のことなど手配。

大臣にポリオワクチン検定のこと話す。

薬業時報に、「松尾さんの思ひ出」の稿渡す。

◎六月七日(火) 晴

正午から定例の局長会議。

午後二時過林先生宅に告別式にゆく。

福田先生一家も見えていた。

◎六月八日(水) 曇

十一時から定例の課長会議。

午後一時から、血液銀行問題その他の重要事項の改善方策につき省議に

出席。

薬事、製薬両課長以下及び法制局の眞田氏等、薬事法案立案関係者慰労の趣旨で一行十人、夜の観光バスにのり、そのあと、中村君の店で飲む。

◎六月九日(木) 曇

昨日から自民党だけで、参議院の安保特別委員会審議。昨日の参議院本會議で医療金ユ公庫法案成立。

◎六月十日(金) 晴

朝大橋武夫氏を宅に訪問。ポリオワクチンのこと、了解を得る。
十時から自民党医療対策委員会に出席。
夕、謡の稽古。

◎六月十一日(土) 晴

昨日午後、アイクの新聞係秘書ハカチー氏羽田到着後、全学連等のデモ隊にかこまれ、一時間後、米軍ヘリコプターで脱出したという不祥事件発生。言語道断の行為である。

午前、尾崎人事課長来訪、医療金融公庫理事長人事問題につき至緯話あり。かねて厚生省としては、田辺前次官を推せんしていたが、昨日、渡辺厚相はこれを退け、部内人事渋滞してもおり、安田現次官を同氏に話し、安田次官は部内刷新のため辞任する、しかし、公庫にゆくの断るとの意思表示をしたことになっている、というわけである。大山君も同席だったが我らの意見は大変困った事態だが、こゝまでくればやはり、安田次官に枉げて受けてもらう外ない、しかし渡辺大臣もまづいというわけ。

午後、高田正巳君と種々打合せ。大臣は今日三時に東京発帰郷。安田氏も今夕離京帰郷ということになっているがその前に、やはり大臣としては、自分の云い方がまづかったが真意はかうだからもう一度、考へ直し

て是非うけてくれということを官房長を通じてでも安田氏に云うべきであると考え、森本氏にそのやうな措置をとってもらうやうにする。

午後上野松阪屋に黄金の美展を見にゆく。

その前国会周辺、米国大使館周辺を車で一巡本日のデモの状況を視てまわる。

昨日の羽田事件、国外に大きな波紋をなげ、信用回復には大変な努力が要らう。

◎六月十二日(日) 晴

秋のやうなさわやかな天気。

午後一時半から共済會館に於て渡部貞夫君の結婚式引き続いて披露。新婦は、猪狩和子という人。山田君の司會で仲々いゝ會合だった。

◎六月十三日(月) 晴

風邪気味が頭微痛。

午前、高田社会局長を訪ね、やがて、やつて来た森本氏を交へ、公庫理事長人事に伴う尔後の人事問題につき懇談。尚、安田次官は今朝郷里から帰京したが理事長をうける方に傾いている。

後葛西さん、来訪。同問題。

熊本縣薬ム課長、大阪府薬ム課長、更迭人事につき打合せ。

午後四時半東京會館に、必須アミノ酸協会発会式に出席。

今日、三頭首會談ならず、岸、西尾の二頭首會談。

◎六月十四日(火) 晴

大阪府薬ム課長、人事局間で打合せ。

正午から定例の局長會議。

安田次官の公庫理事長、高田正巳氏の次官昇格内定、発表。

◎六月十五日(水) 曇

朝八時過渡辺大臣から電話があり、太宰君を社会局長にしてくれんかという云ひ出しで人事の話あり。これに対し、僕は、此の際は全面異動をさけるべきであり、その趣旨からも森本社会局長、牛丸官房長で行った方がよいとの意見をのべたが大臣は、森本氏は官房長にその俣という積りの様だった。結局、双方意見を云った俣で電話はされたが、どうしてこういう電話をかけてこられたら分らないし、又、云はれるが如き構想の根本の考へ方も分らない。

間もなく、高田正巳氏から電話あり、官房長の件小山説については如何と聞いてきたので対医師會關係を考慮して慎重を希望した。

午前、熊本の吉良薬ム課長上京来訪。彼を九州麻薬取締官事ム所長に転、薬務課長更迭の件につき話し合う。彼は積極的に転じたい考へである。結局此の考へを厚生省としても受け入れることになる。

正午から定例の課長會議。

午前十時半、日 薬谷岡氏、全 薬 小木曾氏を招致、薬事法案通過策につき促進運動方打合せ。

今日、安保阻止の統一行動で終日やかましい。夕、全 学 連の国会区域乱入で一人死亡、相当数の負傷者が出る事件が起きた様である。

◎六月十六日(木) 雨

朝議事堂構内を自働車で一巡する。綺麗に片づいてはいるが、植木が無残である。

午後、国会内で鈴木さんを訪ねる。国会近辺、昨日以上にデモ多く、また何か事故が起りそうな感じがする。

四時、安田次官から僕の転勤につき話あり。太宰社会局長、森本保険局長、官房長に僕、薬務局長に牛丸氏との事。こういう一連のつながった異動については僕は反対の意見を持っていたが決定したとの事につき仕方なく引き下る。局内課長諸君には一応知らせる。

午後七時、故小林栄三郎氏の御通夜にゆく。

午後四時の臨時閣議で、アイク訪日延期方申入れ決定との事。^[Dwight D. Eisenhower]

◎六月十七日(金) 晴

午前十時半、次官から辞令をもらう。^(高田正三)

十一時、薬務局員に対し、牛丸新局長と共に挨拶。^(義留)

十一時半、五階講堂に於て新旧次官の廳員一同に対する挨拶あり。^(安田巖)

正午から局長會議メンバー一同會食。

午後二時半、青山齋場に小林栄三郎氏の告別式にゆく。

三時半から高田次官、森本前官房長と共に今日の人事に続く、異動の案につき打合せ。午後六時頃まで。

帰途、渡辺大臣、葛西、木村両氏宅に挨拶に過る。^(良夫)^(嘉資)^(忠二郎)

◎六月十八日(土) 晴

午前、午後とも人事異動案作成、検討。官房課長以上決定、課長クラス、概ね構想まとめる。

正午から虎門で、薬ム局の書記室一同で別れの會食。^(虎ノ門)

国会周辺デモ多数。総府あたりは焼打をくらかも知れぬというので書類の整理をも一部にはしたとの事。不祥事起きねばいゝがと思う。

今夜で丁度、安保条約自然承認。徹夜のデモで騒々しかった様子。

◎六月十九日(日) 晴

午前中テニス。

午後在宅休養。

植木屋来り庭木の手入れ。

◎六月二十日(月) 曇

人事異動案検討、概ね確定。次官から栗山君らに申渡し、僕から鈴村君等に話す。鈴村君も同年度から官房課長に出ないことが不満の様であった。^(廉平)^(信吾)

夕、衆議院永山委員長^(忠剛)の招きで、社労理事メンバーとこちら新次官、新旧官房長、残った法案の取扱につき相談。機を見て一括可決本會議に持込むことに概ね意向一致。但し、他の委員會の様子を見、独走せざる様と。

◎六月二十一日(火) 雨

朝、鈴村君来り、種々意見あり。^(信吾)

午後、国会関係挨拶廻り。

防衛廳に山本人事局長を訪ね、医療金融公庫人事に伴う防衛廳衛生局長^(幸雄)^(石橋卯吉)人事につき相談。

正午から定例の局長會議。

◎六月二十二日(水) 雨

夜来風雨強し。

午前、国会関係及び各省挨拶廻り等。むし暑いこと甚し。

防衛廳衛生局長人事につき高田次官、今井次官^(正巳)^(久)を訪問。大体まとまる見込。

◎六月二十三日(木) 晴

暑い。

審ギ官以下課長級の人事異動発令。

午後挨拶廻り。医師會館で武見會長^(太郎)にも會う。前途多難を思はせる。

◎六月二十四日(金) 晴

正午から定例の官房の課長會議。

挨拶廻りの残り、多少廻る。

午後四時社會事業會館で、新旧次官局長の歡送迎會、出席。夕、謡の稽古。仕舞の稽古始める。

◎六月二十五日（土）晴

朝、防衛廳衛生局長人事で山本^{〔幸雄〕}人事局長来訪。

午後一時から道府縣會館で医療制度調査會開催、出席。午後四時近くまで、退屈な論議。

挨拶状宛先等整理、六時頃退廳。

新大手町ビルで、有斐^{〔義立〕}学舎同窓會、細川元侯爵以下出席。有斐會と称し、年一遍開會の事に定る。

◎六月二十六日（日）晴

梅雨に似合はずさわやかな天気。終日家でごろく。

◎六月二十七日（月）晴

午後重要政策検討。

夕、医師會の招待。こちら大臣以下。^{〔渡辺良夫〕}

◎六月二十八日（火）晴

暑氣漸く加はる。

正午から定例の局長會議。

午後重要政策検討。

◎六月二十九日（水）晴

暑さ続く。

午後各局の懸案事項説明。次官^{〔高田正巳〕}とともに聞く。

◎六月三十日（木）晴

暑氣続く。

正午から定例の次官会ギに次官^{〔高田正巳〕}の代理で出席。

夕、大臣の記者招待に陪席ののち、薬ム局の送別会に出席。^{〔渡辺良夫〕}